

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 基礎 | 情報統計科学 | 4 | 60 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 中村 直人 | 理学療法研究、作業療法研究 | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | アプリケーションの基本的な使い方を理解し、また、生物科学の理論の根拠としての統計学の基礎を学ぶ | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 1. 文章作成、表計算、プレゼンテーションに用いられるアプリケーションの基本的な機能を理解する。 2. 統計学の基礎となる概念である、確率、測定尺度、正規分布、等を理解する。 3. 基本的な統計的手法を理解する。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>アプリケーションの使用経験(コンピュータ自体の操作法を含む)や、数学的な知識の背景は皆さん個人個人で異なるため、人によっては授業時間だけでは理解が不十分な事があるかも知れません。少人数での補習を行いますので、担当教員から勧められたら積極的に参加して下さい。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書:市原清志/著 バイオサイエンスの統計学 (南江堂) | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>授業やテストで使用しますので、ルート($\sqrt{\quad}$)の計算ができる電卓を用意し、指示したときに持ってきて下さい。なお、授業やテストでの関数電卓やプログラム電卓の使用は禁じます。不明な点に関しては担当教員に確認して下さい。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | | | | |
| 小テスト | 100 | 4回の小テストで成績を評価します。4回の平均で、60%以上を合格の目安とします。 | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 前半の講義で行う、プレゼンテーション等の出来不出来(内容よりも、真面目に行っているかどうか)を成績に加味する場合があります。質問等の積極的な姿勢は加点の対象とする場合があります。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|--|----|------------------|----------|
| 第1回 4月5日 | オリエンテーションとdesknet'sの使い方(講義の目的の説明と、本校で使用するポータルサイトであるデスクネットの使用法を学ぶ) KW:ユーザーID、パスワード、メール、回覧板、会議室 | 中村 | | PC室 |
| 第2回 4月12日 | 自分をプレゼンしよう (パワーポイントを用いて、自己紹介を作成する) | 中村 | | PC室 |
| 第3回 4月19日 | 履歴書を作ろう (ワードを用いて、自分の履歴書を作成する) | 中村 | | PC室 |
| 第4回 4月26日 | 表計算って何? (エクセルの基本的な機能を理解する) | 中村 | | PC室 |
| 第5回 5月10日 | 統計学とは何か (生物科学において、なぜ統計という概念が必要なのか理解する) KW:母集団、標本、分布 | 中村 | p1-7 | PC室 |
| 第6回 5月17日 | 統計の基礎になる数学 (統計学を理解するために必要な基礎数学について学ぶ) KW:確率、シグマ | 中村 | | PC室 |
| 第7回 5月24日 | 尺度と分布Ⅱ (統計学を理解するために必要な概念について学ぶ) KW:正規分布 | 中村 | p18-21, 24-25 | PC室 |
| 第8回 5月31日 | 尺度と分布Ⅰ (統計学を理解するために必要な概念について学ぶ) KW:分類尺度、順序尺度、間隔尺度、比尺度 | 中村 | p9-11 | PC室 |
| 第9回 6月7日 | 検定の原理Ⅰ (統計的手法の手順について学ぶ) KW:帰無仮説、対立仮説、検定量、有意水準、確率 | 中村 | p9-11 | PC室 |
| 第10回 6月14日 | 検定の原理Ⅱ (統計的手法の手順について例題を用いて学ぶ) KW:帰無仮説、対立仮説、検定量、有意水準、確率 | 中村 | p14-25 | PC室 |
| 第11回 6月21日 | 対応のある2群の差の検定Ⅰ (1標本のパラメトリック検定である、1標本t検定の原理を学ぶ) | 中村 | p14-25 | PC室 |
| 第12回 6月28日 | 対応のある2群の差の検定Ⅱ (前回の続き) | 中村 | p28-41 | PC室 |
| 第13回 7月5日 | 対応のある2群の差の検定Ⅲ (前回の続き) | 中村 | p28-41 | PC室 |
| 第14回 7月12日 | 対応のある2群の差の検定Ⅳ (1標本のノンパラメトリック検定である、Wilcoxon検定の原理を学ぶ) | 中村 | p50-63 | PC室 |
| 第15回 7月21日 | 対応のある2群の差の検定まとめ(小テスト) | 中村 | | 講堂 |
| 定期試験 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|---|----|----------|----------|
| 第16回 8月30日 | 対応のない2群の差の検定Ⅰ (2標本t検定の概要を学ぶ) | 中村 | p72-89 | PC室 |
| 第17回 9月6日 | 対応のない2群の差の検定Ⅱ (t検定に必要なF検定とWelchの検定について学ぶ) | 中村 | p72-89 | PC室 |
| 第18回 9月13日 | 対応のない2群の差の検定Ⅲ (2標本t検定の一連の流れを学ぶ) | 中村 | p72-89 | PC室 |
| 第19回 9月20日 | 対応のない2群の差の検定Ⅳ (Mann-Whitneyの検定を学ぶ) | 中村 | p90-99 | PC室 |
| 第20回 9月27日 | 対応のない2群の差の検定まとめ(小テスト) | 中村 | | 109 |
| 第21回 10月4日 | 計数値データの測定Ⅰ (1要因の検定法のうち二項検定を学ぶ) | 中村 | p116-121 | PC室 |
| 第22回 10月11日 | 計数値データの測定Ⅱ (1要因の検定法のうち、 χ^2 乗適合度検定を学ぶ) | 中村 | p122-123 | PC室 |
| 第23回 10月18日 | 計数値データの測定Ⅲ (2要因の検定法のうち、 2×2 のマトリックスの検定法を学ぶ) | 中村 | p124-129 | PC室 |
| 第24回 10月25日 | 計数値データの測定Ⅳ (2要因の検定法のうち、 $1 \times m$ のマトリックスの検定法を学ぶ) | 中村 | p130-131 | PC室 |
| 第25回 11月1日 | 計数値データの測定まとめ(小テスト) | 中村 | | 109 |
| 第26回 11月8日 | 回帰と相関Ⅰ (回帰式の求め方を学ぶ) | 中村 | p204-211 | PC室 |
| 第27回 11月15日 | 回帰と相関Ⅱ (回帰式の傾きの有意性の検定を学ぶ) | 中村 | p212-217 | PC室 |
| 第28回 11月22日 | 回帰と相関Ⅲ (相関係数の求め方と相関係数の有意性の検定を学ぶ) | 中村 | p224-231 | PC室 |
| 第29回 11月29日 | 統計的検定についてのまとめ | 中村 | | PC室 |
| 第30回 12月6日 | 回帰と相関まとめ(小テスト) | 中村 | | 109 |
| 定期試験 | | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 基礎 | 心理学 | 2 | 30 | 必修 | - |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 両学科・1年次 | 中村 直人 | 臨床心理学、生理学、運動学、等 | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 人間の行動や基礎にある原理を学び、こころの理解に必要な基本的知識を身につける。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動を引き起こす入力としての感覚・知覚、行動を支える意識・情動について理解する。 2. 行動を司るメカニズムとしての学習・記憶・思考について理解する。 3. 個人を形作る特徴と人同士のかかわり合いによる行動の変化について理解する。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>理学療法士・作業療法士は、体や心にハンディキャップを持つ人をサポートすることが仕事です。そのため、健常な人の心を知っておくことは非常に重要です。</p> <p>皆さんが将来受験する国家試験では「心理学」という分野はありませんが、関係する設問が色々な分野(特に臨床心理学、運動学、生理学等)にまたがって出題されるので、単なる教養科目と思わないで受講して下さい。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書は使用せず、プリントを配布します。 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 時間変更等の連絡は主にデスクネット(本校で使用されているポータルサイト)で行います。一日に数度はチェックするよう心がけて下さい。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 前期末試験を行います。100点満点の60点以上を合格とします。 | | | |
| 小テスト | * | 三回の小テストを行います。定期試験に沿った出題をしますので、評価には含めませんが真面目に受けて下さい。不真面目な答案は減点の対象となる場合があります。 | | | |
| レポート | 0 | | | | |
| 実技試験 | 0 | | | | |
| プレゼンテーション | 0 | | | | |
| その他 | * | 質問等の積極的な姿勢は加点の対象とする場合があります。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 目付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------|--|----|-----|----------|
| 第1回 | 感覚と知覚(我々の行動を引き起こすメカニズムの入り口としての感覚と知覚を視覚を例にとりて学ぶ) KW: 桿体、錐体、盲点、奥行き知覚、恒常性、錯視 | 中村 | | |
| 第2回 | 意識(我々の行動を支える意識の活動とその変容について学ぶ) KW: サーカディアンリズム、感覚遮断、催眠、薬物依存 | 中村 | | |
| 第3回 | 学習Ⅰ(我々の行動を引き起こす学習の基礎について学ぶ) KW: 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、弁別、般化、強化 | 中村 | | |
| 第4回 | 学習Ⅱ(人間の運動学習に深くかかわる概念を学ぶ) KW: 結果の知識、遂行の知識、分散学習と集中学習、運動プログラム | 中村 | | |
| 第5回 | 第一回小テスト 1-4回までの内容の確認と解説を行う。 | 中村 | | |
| 第6回 | 記憶(我々が頭の中に情報を保持するための基本的メカニズムについて学ぶ) KW: 忘却、干渉、宣言的記憶、手続き的記憶 | 中村 | | |
| 第7回 | 動機づけ(我々の行動を強めたり弱めたりする機能について学ぶ) KW: 生理的動機、内発的動機、社会的動機 | 中村 | | |
| 第8回 | 情動(行動を我々の意図とは異なる方向へ導くメカニズムについて学ぶ) KW: 末梢説、中枢説、パペッツの回路、二重構造説、扁桃体 | 中村 | | |
| 第9回 | ストレスとコーピング(同じ刺激でも異なる影響を引き起こすメカニズムとストレスへの対処について学ぶ) KW: ストレス、HPA軸、汎適応症候群、A型行動パターン | 中村 | | |
| 第10回 | 第二回小テスト 6-9回までの内容の確認と解説を行う。 | 中村 | | |
| 第11回 | パーソナリティと診断(我々の個性を形作る特徴とその測定法について学ぶ) KW: 類型論、特性論、質問紙法、作業検査法、投影法、テストバッテリー | 中村 | | |
| 第12回 | 思考と言語Ⅰ(我々が「考えている」とき、頭の中でどのようなことが起こっているかについて学ぶ) KW: 問題解決、表象、概念 | 中村 | | |
| 第13回 | 思考と言語Ⅱ(我々はどのようなやり方で考え、その結果をどのように整理しているかについて学ぶ) KW: 推論、文章理解 | 中村 | | |
| 第14回 | 人間関係の心理(他者の存在が我々の行動にどのように影響するか学ぶ) KW: アイヒマン実験、認知的不協和、責任の拡散、リスクシフト | 中村 | | |
| 第15回 | 第三回小テスト 11-14回までの内容の確認と解説を行う。 | 中村 | | |
| 定期試験 | 前期末試験 | 中村 | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|---|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 基礎 | 科学哲学 | 2 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 岩崎 大(非常勤) | | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 科学哲学の認識を経て、リハビリテーションに関わる者として、そして一人の人間として、科学的、哲学的に自問していく素養を身に着ける | | | | |
| 行動目標 (SBO) | | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>科学は人類の生活を豊かにしてきた。しかしその一方で、科学が人類に様々な危機をもたらしていることも事実である。本講義では、リハビリテーションを含む、人間の生、そして死のあらゆる営みに関与する科学の実相を明らかにしていく。科学を哲学的に分析することによって、科学のもつ普遍性、確実性は脅かされることとなる。本講義の目標は、科学哲学の認識を経て、リハビリテーションに関わる者として、そして一人の人間として、科学的、哲学的に自問していく素養を身に着けることにある。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| <p>稲垣 諭:『リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション』. 春風社 <参考図書>A.F. チャルマーズ『科学論の展開』恒星社厚生閣 岩崎大『生死学—死の隠蔽から自己確信へ—』. 春風社 その他、講義中に適宜示唆する。</p> | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>前期、隔週火曜日の3, 4限に開講。 講義形式であるが、参加型の課題やグループディスカッション、映像作品の視聴も行う。</p> <p>哲学とは、知識を蓄積することではなく、生の経験から問いを立て、自らの思考を展開していくことである。そのため講義では、問いを自らの生に関わる問題としてとらえ、思案する態度が重要である。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 前期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|-----------------------|----|-----|----------|
| 第1回 4月5日 | 哲学とは何か | 岩崎 | | 講堂 |
| 第2回 4月5日 | 哲学に何ができるのか | 岩崎 | | 講堂 |
| 第3回 4月19日 | 科学的な推論とは① | 岩崎 | | 講堂 |
| 第4回 4月19日 | 科学的な推論とは② | 岩崎 | | 講堂 |
| 第5回 5月10日 | 「全てのカラスは黒い？」(帰納法の問題)① | 岩崎 | | 講堂 |
| 第6回 5月10日 | 「全てのカラスは黒い？」(帰納法の問題)② | 岩崎 | | 講堂 |
| 第7回 5月24日 | 反証主義 | 岩崎 | | 講堂 |
| 第8回 5月24日 | 理論負荷性 | 岩崎 | | 講堂 |
| 第9回 6月7日 | 科学の発展① | 岩崎 | | 講堂 |
| 第10回 6月7日 | 科学の発展② | 岩崎 | | 講堂 |
| 第11回 6月21日 | リハビリテーションと哲学① | 岩崎 | | 講堂 |
| 第12回 6月21日 | リハビリテーションと哲学② | 岩崎 | | 講堂 |
| 第13回 7月5日 | 臨床における倫理的問題① | 岩崎 | | 講堂 |
| 第14回 7月5日 | 臨床における倫理的問題② | 岩崎 | | 講堂 |
| 第15回 7月19日 | まとめ *3時限目 | 岩崎 | | 講堂 |
| 定期試験 | 前期末試験 | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|---|--|----|-------|-------|
| 基礎 | 健康科学 | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 佐藤 哲守(非常勤) | スポーツ科学 ほか | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 心と身体の両面から健康を捕らえ直し、実習を通して基礎体力と人間性を磨く。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 1)心身共に健康な状態を理解する。 2)心の状態を測定し把握する。 3)スポーツ選手のコンディショニングを学ぶ。 4)自身のフィジカルコンディショニングを実践する。 5)自身のメンタルコンディショニングを実践する。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>前期は、心と身体の両面から健康を捕らえ直し、実習を通して基礎体力と人間性を磨くことを目標とします。</p> <p>後期は、心肺蘇生法とAEDについての知識と技術修得を目標とします。</p> <p>この授業は通年で開講し、単位(1)は前後期通じての単位となります。このシラバスは前期分のみ掲載で、後期分は別に配布しますので、そちらを参照して下さい。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| ①BLS Heartsaver Guide 心肺蘇生及び気道閉塞の応急手当受講生ハンドブック(America Heart Association) ②Public Access Defibrillation Seminar Note(国際救命救急協会) 教 材 : ①補足資料、②ストレッチマット、③Qマスク(後期配布予定) | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 体操のできる服装で出席すること。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | | | | |
| 小テスト | 70 | 前期は、最終授業時にテストを行う(50点)。 後期は、救急法の筆記テストを行う(20点)。 | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | 30 | 救急法の実技テストを行う(30点)。 | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|-----------------------------|----|-----|----------|
| 第1回 4月14日 | 健康とコンディショニングについて、目標設定と意欲の向上 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第2回 4月14日 | 健康とコンディショニングについて、目標設定と意欲の向上 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第3回 5月12日 | 健康の為の体操、感情コントロール | 佐藤 | | 講堂 |
| 第4回 5月12日 | 健康の為の体操、感情コントロール | 佐藤 | | 講堂 |
| 第5回 5月26日 | ダイエットと体操、コミュニケーション能力の高め方 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第6回 5月26日 | ダイエットと体操、コミュニケーション能力の高め方 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第7回 6月9日 | 運動器候群とロコトレ、リラックスと集中力 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第8回 6月9日 | 運動器候群とロコトレ、リラックスと集中力 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第9回 6月23日 | 柔軟性トレーニング、イメージコントロール法 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第10回 6月23日 | 柔軟性トレーニング、イメージコントロール法 | 佐藤 | | 講堂 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|---|--|----|-------|-------|
| 基礎 | 健康科学 | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 佐藤 哲守(非常勤) | スポーツ科学 ほか | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 心肺蘇生法とAEDについての知識と技術を修得する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 1)心肺蘇生法とAEDの基礎知識を理解する。 2)AEDを実際に使用出来るようする。 3)心肺蘇生法の実技を修得する。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>前期は、心と身体の両面から健康を捕らえ直し、実習を通して基礎体力と人間性を磨くことを目標とします。</p> <p>後期は、心肺蘇生法とAEDについての知識と技術修得を目標とします。</p> <p>この授業は通年で開講し、単位(1)は前後期通じての単位となります。このシラバスは後期分のみ掲載です。前期分は配布済みですので、そちらを参照して下さい。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| ①BLS Heartsaver Guide 心肺蘇生及び気道閉塞の応急手当受講生ハンドブック(America Heart Association) ②Public Access Defibrillation Seminar Note(国際救命救急協会) 教 材 : ①CPR用手袋付きQマスク(後期授業内配布)、②ストレッチマット | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| ストレッチマットは授業前に手元に用意すること。前期配布の教科書を必ず持参すること。体操のできる服装で出席すること。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | | | | |
| 小テスト | 70 | 前期は、最終授業時にテストを行う(50点)。 後期は、救急法の筆記テストを行う(20点)。 | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | 30 | 救急法の実技テストを行う(30点)。 | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------|----------------|----|-----|----------|
| 第11回 | CPR + AED 講義 1 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第12回 | CPR + AED 講義 2 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第13回 | CPR + AED 実技 1 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第14回 | CPR + AED 実技 2 | 佐藤 | | 講堂 |
| 第15回 | 実技テスト・筆記テスト | 佐藤 | | 講堂 |

※ 8グループに分かれて行う。下記日程のうち、1日受講する。

9/10(土) ・ 10/15(土) ・ 10/29(土)

11/12(土) ・ 11/19(土) ・ [12/3\(土\)](#) ・ 12/10(土) ・ 12/17(土)

※ 第11回は9:00に授業が開始できるよう参加者全員で準備すること

- ・各自ストレッチマット準備
- ・プリント配布完了
- ・ポータブルベッド1台
- ・練習用AED人形準備

※ 第15回は18:15を終了予定時刻とする

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|--|--|----|-------|-------|
| 基礎 | 英語 I | 2 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | Jeremy Whitehead (非常勤) | 英語A、英語B | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 医療に関連した英語を学ぶ。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | ①カルテに書かれている英語を理解する。 ②英語医療論文を読解する手段を知る。 ③医療現場で簡単なコミュニケーションを図れる。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>療法士にとって、流暢な英語を修得することは必ずしも必要ではない。①カルテに書かれている英語を理解すること、②英語医療論文を読解する手段を知ること、③医療現場での簡単なコミュニケーションが図れること、が本講義での授業目標である。また、医学用語のラテン語やギリシア語の起源を学ぶことにより専門用語の理解を深める手段を学んでいく。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| Textbooks 1. (50-50) Fifty-Fifty - A speaking and listening course- Intro, 3rd Edition; by Warren Wilson & Roger Barnard, Published by Pearson Longman 2007. 2. (BET) Basic English Textbook for Learners of Rehabilitation Sciences リハビリテーションの基礎英語, by Masako Shimizu, Published by Medical View 2009 3. (E4N) 看護系学生のための実践英語 English for Nurses山中マーガレット, Patricia Parker Asahi Press. | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 前期、毎週水曜日を開講する。 適宜小テストを実施すると同時に、授業への参加態度も評価する。予習、復習と積極的な授業参加を期待する。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合 (%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | 前期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | 30分程度の小テストを行うことがある。 | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | | 出席 (30分程度の小テストを兼ねることもある)、課題、授業態度、グループワーク、期末試験を総合的に評価する。詳細については初回授業で説明する予定。A test at the beginning of the course, a short quiz every lesson, and a 60 minute exam at the end. Attitude, Class participation, & Improvement will all be important. | | | |
| (合計) | | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|---|------------------|-----|----------|
| 第1回 4月6日 | コースオリエンテーション、 Test, 50-50 Getting started: Introductory exercises Handwriting practice BET - Chapter 1: What's Rehabilitation? | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第2回 4月13日 | Quiz about last lesson. E4N Lesson 1:Is this your first visit to the hospital? Handwriting practice BET Chapter 4 Part 1 Bone Fracture | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第3回 4月20日 | Quiz about last lesson. 50-50 Lesson 1: Spelling & Numbers. Handwriting practice BET Chapter 2 Part 1 Plane & Direction | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第4回 4月27日 | Quiz about last lesson. E4N Lesson 2: What's the matter? Handwriting practice BET Chapter 4 Part 2 Chronic Back Pain | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第5回 5月11日 | Quiz about last lesson. 50-50 Lesson 2: Countries and languages Handwriting practice BET Chapter 2 Part 2 The Range of Motion (ROM) part I | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第6回 5月18日 | Quiz about last lesson. E4N Lesson 3: You need to go to Dermatology Handwriting practice BET Chapter 4 Part 3 Arthritis | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第7回 5月25日 | Quiz about last lesson. 50-50 Lesson 3: Locations Handwriting practice BET Chapter 2 Part 2 The Range of Motion (ROM) part II | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第8回 6月1日 | Quiz about last lesson. E4N Lesson 4: Let me direct you to Radiology Handwriting practice BET Chapter 4 Part 4 Sports Injury | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第9回 6月8日 | Quiz about last lesson. 50-50 Lesson 4: Actions Handwriting practice BET Chapter 2 Part 2 The Range of Motion (ROM) part III | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第10回 6月15日 | Quiz about last lesson. E4N Lesson 5:Let's check your height& weight Handwriting practice BET Chapter 4 Part 5 Parkinson's disease | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第11回 6月22日 | Quiz about last lesson. Handwriting practice BET Chapter 2 Part 2 The Range of Motion (ROM) part IV Positions | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第12回 6月29日 | Quiz about last lesson. E4N Lesson 6: I need to ask you some questions Handwriting practice BET Chapter 4 Part 6 Stroke | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第13回 7月6日 | Quiz about last lesson. 50-50 Lesson 6: Occupations Handwriting practice BET Chapter 2 Part 3 Major Joints & Regions of the Body | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第14回 7月13日 | Quiz about last lesson. E4N Lesson 7: Can you describe the pain? Handwriting practice BET Chp.4 Part7(b) Chronic Obstructive Pulmonary Disease | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第15回 7月20日 | Quiz about last lesson. 50-50 Lesson 7: Free time activities Exam preview Handwriting practice BET Chapter 4 Part 7(a) Dysphagia & 8 Speech Disorders | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 定期試験 | 前期末試験(試験期間7/25~7/28のうち3限12:30~) | Jeremy Whitehead | | 講堂 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 基礎 | 英語A | 1 | 15 | 選択 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | Jeremy Whitehead(非常勤) | 英語 I | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 医療に関連した英語を学ぶ。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | ①カルテに書かれている英語を理解する。 ②英語医療論文を読解する手段を知る。 ③医療現場で簡単なコミュニケーションを図れる。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 療法士にとって、流暢な英語を修得することは必ずしも必要ではない。①カルテに書かれている英語を理解すること、②英語医療論文を読解する手段を知ること、③医療現場での簡単なコミュニケーションが図れること、が本講義での授業目標である。英語 I では、基本的英会話と、医療現場で使用される可能性のある簡単な英会話を学んでいく。また、療法士に必要な用語を学習する。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| Textbooks 1. (50-50) Fifty-Fifty - A speaking and listening course- Intro, 3rd Edition; by Warren Wilson & Roger Barnard, Published by Pearson Longman 2007. 2. (BET) Basic English Textbook for Learners of Rehabilitation Sciences (Revised 2nd edition) リハビリテーションの基礎英語(改訂第2版), by Masako Shimizu, Published by Medical View 2015 3. (E4N) 看護系学生のための実践英語 English for Nurses山中マーガレット, Patricia Parker Asahi Press. | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 後期、毎週月曜日3時限目に開講する。 授業方法;講義、グループワーク演習, Pair work. Quizzes. Roleplays. Listening exercises. 適宜小テストを実施すると同時に、授業への参加態度も評価する。予習、復習と積極的な授業参加を期待する。 Roleplay situations will be challenging but a good chance to use your English as much as you can. Use your imagination and don't worry about making mistakes! 講義内容は変更することがある。Reviewing and previewing the lessons will be helpful. This will be a fun continuation to English in medical situations with a new situation each week. | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | 前期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | 30分程度の小テストを行うことがある。 | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | | 出席(30分程度の小テストを兼ねることもある)、課題、授業態度、グループワーク、期末試験を総合的に評価する。詳細については初回授業で説明する予定。A test at the beginning of the course, a short quiz every lesson, and a 60 minute exam at the end. Attitude, Class participation, & Improvement will all be important. | | | |
| (合計) | | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|---------------------|-----|----------|
| 第1回 8月29日 | コースオリエンテーション. Test 50-50 8: Possessions E4N 8: Rest your arm on the armrest Handwriting practice | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第2回 9月5日 | E4N 9: Please make a follow-up appointment. BET Chapter 3 Part 1 The Skeletal System (a) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第3回 9月12日 | E4N 10: Take this medicine after meals. BET Chapter 3 Part 1 The Skeletal System (b) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第4回 9月26日 | E4N 11: Your operation will be this afternoon. 50-50 11: The past I BET Chapter 3 Part 2 The Muscular System (a) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第5回 10月3日 | E4N 12: Are you feeling more comfortable now? BET Chapter 3 Part 2 The Muscular System (b) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第6回 10月17日 | E4N 13: This is an emergency. 50-50 13: Future 'going to' BET Chapter 3 Part 3 The Nervous System (a) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第7回 10月24日 | E4N 14: Test show you have high sugar levels. 50-50 14: On the telephone BET Chapter 3 Part 3 The Nervous System (b) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第8回 10月31日 | Exam preview Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 定期試験 11月21日 | 後期末試験 | Jeremy Whitehead | | 講堂 |

※再試験:12/5(月)3.4時限目

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 基礎 | 英語B | 1 | 15 | 選択 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | Jeremy Whitehead(非常勤) | 英語 I | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 医療に関連した英語を学ぶ。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | ①カルテに書かれている英語を理解する。 ②英語医療論文を読解する手段を知る。 ③医療現場で簡単なコミュニケーションを図れる。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 療法士にとって、流暢な英語を修得することは必ずしも必要ではない。①カルテに書かれている英語を理解すること、②英語医療論文を読解する手段を知ること、③医療現場での簡単なコミュニケーションが図れること、が本講義での授業目標である。英語 I では、基本的英会話と、医療現場で使用される可能性のある簡単な英会話を学んでいく。また、療法士に必要な用語を学習する。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| Textbooks 1. (50-50) Fifty-Fifty - A speaking and listening course- Intro, 3rd Edition; by Warren Wilson & Roger Barnard, Published by Pearson Longman 2007. 2. (BET) Basic English Textbook for Learners of Rehabilitation Sciences (Revised 2nd edition) リハビリテーションの基礎英語(改訂第2版), by Masako Shimizu, Published by Medical View 2015 3. (E4N) 看護系学生のための実践英語 English for Nurses山中マーガレット, Patricia Parker Asahi Press. | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 後期、毎週月曜日4時限目に開講する。 授業方法;講義、グループワーク演習, Pair work. Quizzes. Roleplays. Listening exercises. 適宜小テストを実施すると同時に、授業への参加態度も評価する。予習、復習と積極的な授業参加を期待する。 Roleplay situations will be challenging but a good chance to use your English as much as you can. Use your imagination and don't worry about making mistakes! 講義内容は変更することがある。Reviewing and previewing the lessons will be helpful. This will be a fun continuation to English in medical situations with a new situation each week. | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | 前期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | 30分程度の小テストを行うことがある。 | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | | 出席(30分程度の小テストを兼ねることもある)、課題、授業態度、グループワーク、期末試験を総合的に評価する。詳細については初回授業で説明する予定。A test at the beginning of the course, a short quiz every lesson, and a 90 minute exam at the end. Attitude, Class participation, & Improvement will all be important. | | | |
| (合計) | | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|---------------------|-----|----------|
| 第1回 8月29日 | コースオリエンテーション. Test 50-50 8: Possessions E4N 8: Rest your arm on the armrest Handwriting practice | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第2回 9月5日 | E4N 9: Please make a follow-up appointment. BET Chapter 3 Part 1 The Skeletal System (a) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第3回 9月12日 | E4N 10: Take this medicine after meals. BET Chapter 3 Part 1 The Skeletal System (b) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第4回 9月26日 | E4N 11: Your operation will be this afternoon. 50-50 11: The past I BET Chapter 3 Part 2 The Muscular System (a) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第5回 10月3日 | E4N 12: Are you feeling more comfortable now? 50-50 12: The past II BET Chapter 3 Part 2 The Muscular System (b) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第6回 10月17日 | E4N 13: This is an emergency. 50-50 13: Future 'going to' BET Chapter 3 Part 3 The Nervous System (a) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第7回 10月24日 | E4N 14: Test show you have high sugar levels. 50-50 14: On the telephone BET Chapter 3 Part 3 The Nervous System (b) Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 第8回 10月31日 | Exam preview Handwriting | Jeremy Whitehead | | 講堂 |
| 定期試験 11月21日 | 後期末試験 | Jeremy Whitehead | | 講堂 |

※再試験:12/5(月)3.4時限目

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|------------------------|--|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 解剖学 I | 2 | 30 | 必修 | 可 |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 菊池和也 | この授業は他の基礎医学、臨床医学系科目、理学療法・作業療法の専門科目の基礎になる学問です。本科目の理解は他教科の理解に直結する。 | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 運動器系を理解する | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 運動に必要な骨格系、筋系、脊髄神経がわかる。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 骨、筋、神経を別に覚えたり理解するのではなくこの3つの系統が人の運動を行っていることを理解してほしい。専門用語については確実に身につけること。不明な点は可能な限りその日に解決するように努力すること。調べてもわからない場合は質問する習慣をつけること。また、可能な限り図示できるようにすること。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書:カラー人体解剖学,F.H. マティーン 他,西村書店。 推薦参考書:Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて、Joseph E.Muscolino原著 日高正巳 監訳、医歯薬出版。 必要に応じて資料を配布する。 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 携帯電話の電源は切ること。居眠り、不要な私語は厳重に注意をする。教科書は事前に必ず読むこと。図を模写する場合があるので色鉛筆、ノート類などの準備しておくこと。専門用語は必ず覚えて読み書きができるようにすること。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 前期期末試験を実施する。合格基準は60%以上とする。 | | | |
| 小テスト | | 確認小テストを5回実施予定とする。但し、成績には影響しない。 | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | | | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|--|----|---------------------------|----------|
| 第1回 4月6日 | 運動器に必要な解剖学用語 キーワード: 身体の部位、人体の面と方向、関節運動の用語 | 菊池 | p11～14、 | |
| 第2回 4月13日 | 骨、関節の構造と機能 キーワード: 骨組織、構造、機能、発生と成長、関節構造 | 菊池 | p54～57、 p85～99 | |
| 第3回 4月20日 | 筋の組織学的分類と構造 キーワード: 横紋筋、平滑筋、筋線維細胞 | 菊池 | p59～61、 p189～197 | |
| 第4回 4月27日 | 脊髄と脊髄神経の構造 キーワード: 髄膜、脊髄断面、神経根、脊髄神経節、前枝、後枝 | 菊池 | p277～284 | |
| 第5回 5月11日 | 【第1～4回目の復習】 上肢の筋 1: 筋名 キーワード: 上肢帯の筋、肩関節の筋、上腕の筋、前腕の筋、手関節・ 手指の筋 | 菊池 | p226～238 | |
| 第6回 5月18日 | 【第5回の復習】 上肢の筋 2: 骨付着部 キーワード: 肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、指骨 | 菊池 | p226～238 | |
| 第7回 5月25日 | 上肢の筋 3: 手指に作用する筋 キーワード: 手外在筋、手内在筋、母指球筋 | 菊池 | p226～238 | |
| 第8回 6月1日 | 上肢の筋 4: 上肢の断面図 キーワード: 肩関節断面、上腕断面、前腕断面、手根管部断面 | 菊池 | p226～238 | |
| 第9回 6月8日 | 上肢の筋 5: 支配神経 キーワード: 脊髄神経節、腕神経叢、上肢脊髄神経走行、筋への分岐 | 菊池 | p287～294 | |
| 第10回 6月15日 | 【第5回～9回の復習】 | 菊池 | | |
| 第11回 6月22日 | 下肢の筋 1: 筋名 キーワード: 下肢帯の筋、股関節内転筋、大腿筋、下腿筋 | 菊池 | p239～252 | |
| 第12回 6月29日 | 【第11回の復習】 下肢筋 2: 骨付着部位の名称 キーワード: 骨盤、大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨 | 菊池 | p226～252 | |
| 第13回 7月6日 | 下肢の筋 3: 下肢の断面図 キーワード: 大腿断面、下腿断面 | 菊池 | p226～252 | |
| 第14回 7月13日 | 下肢の筋 4: 下肢筋の神経支配 キーワード: 脊髄神経節、腰仙骨神経叢、下肢脊髄神経走行、筋への分 岐部 | 菊池 | p287～294 | |
| 第15回 7月20日 | 【第11回～14回の復習】 胸郭 キーワード: 胸郭の構成、呼吸運動、呼吸筋 | 菊池 | p133～ 135、p216 ～219 | |
| 定期試験 | 前期期末試験 | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|-----------------------------|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 解剖学Ⅱ | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 安藤 亨(非常勤) | 解剖学Ⅰ、生理学、人体構造学 | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 人体の構造を理解する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 神経系・感覚器系・呼吸器系・循環器系・消化器系 の構造 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>人の動きに直接関与する筋骨格系はもとより、動きを指令する神経系や動きを感知する感覚器系を十分熟知することと、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系・循環器系・消化器系などについても理解を深める。</p> <p>解剖学Ⅱでは、特に、神経系や感覚器、呼吸器系・循環器系・消化器系について学ぶ。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 野村巖／編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版. 医学書院 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 前期、毎週月曜日の3限に開講します。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 定期試験(前期末試験)を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|--|----|-----|----------|
| 第1回 4月4日 | 解剖学総論 定義・目的、人体の概要、解剖学用語、人体の構成 感覚器系 外皮、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器 | 安藤 | | 講堂 |
| 第2回 4月11日 | 感覚器系 外皮、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器 | 安藤 | | 講堂 |
| 第3回 4月18日 | 神経系総論、末梢神経系① 神経系総論、脳神経脳神経 | 安藤 | | 講堂 |
| 第4回 4月25日 | 末梢神経系② 脳神経、自律神経 | 安藤 | | 講堂 |
| 第5回 5月2日 | 中枢神経系① 大脳 | 安藤 | | 講堂 |
| 第6回 5月9日 | 中枢神経系② 伝導路 | 安藤 | | 講堂 |
| 第7回 5月16日 | 中枢神経系③ 小脳、脳幹、脊髄 | 安藤 | | 講堂 |
| 第8回 5月23日 | 循環器系① 血管系:心臓、循環系の分類 | 安藤 | | 講堂 |
| 第9回 5月30日 | 循環器系② 血管系:動脈系、静脈系、胎生期の循環系 | 安藤 | | 講堂 |
| 第10回 6月6日 | 循環器系③、他 リンパ系、理学・作業療法との関連、人体の発生 | 安藤 | | 講堂 |
| 第11回 6月13日 | 内臓学① 内臓器官の構造、消化器系 | 安藤 | | 講堂 |
| 第12回 6月20日 | 内臓学② 消化器系 | 安藤 | | 講堂 |
| 第13回 6月27日 | 内臓学③ 呼吸器系、内分泌系 | 安藤 | | 講堂 |
| 第14回 7月4日 | 内臓学④ 泌尿器系、生殖器系 | 安藤 | | 講堂 |
| 第15回 7月11日 | 感覚器系・神経系・循環器系・内臓学 第1回～第14回のまとめ | 安藤 | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | 前期末試験 | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|--|----|--------------------|------------------------|
| 第1回 4月8日 | コースオリエンテーション、骨の名称 科目の目的、目標、スケジュール等の確認。骨名称の付けられ方を学ぶ。 <u>SBO①⑧</u> | 渡邊 | 97～102 | 基礎医学 実習室 |
| 第2回 4月22日 | 上肢骨学：肩甲骨・鎖骨・上腕骨 それぞれの骨の部位名称を学ぶ。 <u>SBO①②⑧</u> | 渡邊 | 141～145 | 基礎医学 実習室 |
| 第3回 4月26日 | 上肢骨学：橈骨・尺骨・手・手指 それぞれの骨の部位名称を学ぶ。 <u>SBO①②⑧</u> | 宮下 | 145～150 | 基礎医学 実習室 |
| 第4回 5月6日 | 上肢筋学：上肢帯の筋 上肢帯の筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】三角筋、棘上筋、棘下筋、大円筋、小円筋、肩甲下筋 | 渡邊 | 226～229 | 基礎医学 実習室 |
| 第5回 5月13日 | 上肢筋学：上腕および肘周囲の筋 上腕の筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】烏口腕筋、上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋 | 渡邊 | 229～231 | 基礎医学 実習室 |
| 第6回 5月20日 | 上肢筋学：前腕の伸筋 前腕伸筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】長短橈側手根伸筋、指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋 長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 | 渡邊 | 231～236 | 基礎医学 実習室 |
| 第7回 5月27日 | 上肢筋学：前腕の屈筋 前腕屈筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】橈側手根屈筋、長掌筋、浅指屈筋、深指屈筋、尺側手根屈筋 長母指屈筋 | 渡邊 | 231～236 | 基礎医学 実習室 |
| 第8回 6月2日 | 上肢の復習 第2～7回までの問題演習と解説を行い、学習方法と理解度を点検する。 <u>SBO①～⑦</u> | 渡邊 | 141～150 226～236 | 講堂 |
| 第9回 6月10日 | 下肢骨学：骨盤と大腿骨 それぞれの骨の部位名称を学ぶ。 <u>SBO①②⑧</u> | 渡邊 | 151～159 | 基礎医学 実習室 |
| 第10回 6月16日 | 下肢骨学：脛骨・腓骨・足・足趾 それぞれの骨の部位名称を学ぶ。 <u>SBO①②⑧</u> | 渡邊 | 159～163 | 基礎医学 実習室 |
| 第11回 6月24日 | 下肢筋学：下肢帯の筋 下肢帯の筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋 上下双子筋、内外閉鎖筋、大腿方形筋 | 渡邊 | 239～244 | 基礎医学 実習室 |
| 第12回 7月1日 | 下肢筋学：股関節屈筋と内転筋 股関節内転筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】腸腰筋、恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋 | 渡邊 | 240～245 | 基礎医学 実習室 |
| 第13回 7月8日 | 下肢筋学：大腿の筋 大腿の筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】縫工筋、大腿四頭筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 | 渡邊 | 240～241 | 基礎医学 実習室 |
| 第14回 7月15日 | 下肢筋学：下腿の筋 下腿の筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 <u>SBO③～⑧</u> 【キーワード】前脛骨筋、後脛骨筋、長母趾伸筋、長趾伸筋、長腓骨筋 短腓骨筋、ヒラメ筋、腓腹筋、長母趾屈筋、長趾屈筋 | 渡邊 | 245～249 | 基礎医学 実習室 |
| 第15回 7月22日 | 下肢の復習 第9～14回までの問題演習と解説を行い、学習方法と理解度を点検する。 <u>SBO①～⑦</u> | 宮下 | 151～163 239～249 | 講堂 |
| 定期試験 | 前期末試験 第1～15回までの内容について実施。 | | 上記全範囲 | 基礎医学 実習室・O T実習室2 |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|----|-------------------------------|-------------|
| 第16回 8月30日 | オリエンテーション・椎骨① 脊柱の構造と各椎骨の特徴について学ぶ。 【キーワード】脊柱、椎間板、頸椎、胸椎 | 渡邊 | 126～133 | 基礎医学 実習室 |
| 第17回 9月6日 | 椎骨② 脊柱の構造と各椎骨の特徴について学ぶ。 【キーワード】胸椎、胸郭、腰椎、仙椎 | 渡邊 | 226～230 | 基礎医学 実習室 |
| 第18回 9月13日 | 上肢帯の筋② 上肢帯筋の位置、起始、停止、作用、支配神経を学ぶ。 【キーワード】広背筋、僧帽筋、大小菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋、大小胸筋 | 渡邊 | 226～230 | 基礎医学 実習室 |
| 第19回 9月20日 | 頭蓋骨 頭蓋骨の構造および孔の名称について学ぶ。 【キーワード】脳頭蓋、顔面頭蓋、内頭蓋底、正円孔、卵円孔、棘孔 | 渡邊 | 101～121 | 基礎医学 実習室 |
| 第20回 9月27日 | 脳と大脳 脳および大脳の区分と大脳を分けている溝について学ぶ。 【キーワード】葉、回、溝 | 渡邊 | 305～317 | 基礎医学 実習室 |
| 第21回 10月4日 | 大脳基底核および視床 視床、大脳基底核の位置および名称について学ぶ。 【キーワード】外側膝状体、内側膝状体、線条体、レンズ核 | 渡邊 | 305～317 | 基礎医学 実習室 |
| 第22回 10月11日 | 体幹の解剖と脳の区分および大脳の解剖（復習1） 第16～21回までの問題演習と解説を行い、学習方法と理解度を点検する。 | 渡邊 | 101～133 226～317 | 108 |
| 第23回 10月18日 | 脳幹と小脳 脳幹および小脳の位置および部位名称について学ぶ。 【キーワード】四丘、内側毛帯、網様体、黒質、赤核、大脳脚、橋縦束、薄束核、楔状束核、オリーブ、錐体、小脳半球、中部、片葉 | 渡邊 | 317～322 | 基礎医学 実習室 |
| 第24回 10月25日 | 脳の動脈 脳に血液を送っている動脈について学ぶ。 【キーワード】内頸動脈、椎骨動脈、ウィリス動脈輪、前・中・後大脳動脈 | 渡邊 | 439～447 | 基礎医学 実習室 |
| 第25回 11月2日 | 人体解剖見学実習 解剖学実習だけでなく、関連科目である解剖学で学んだことが、実際の人体ではどうなっているのか学ぶ。 | 渡邊 | — | 浜松医科 大学 |
| 第26回 11月8日 | 脳の伝導路① 中枢神経の部位名称を復習後、下行性の伝導路の経路について学ぶ。 【キーワード】触圧覚、温痛覚、深部感覚 | 渡邊 | 335～346 | 基礎医学 実習室 |
| 第27回 11月15日 | 脳の伝導路② 上行性の伝導路の経路について学ぶ。 【キーワード】錐体路、錐体外路 | 渡邊 | 335～346 | 基礎医学 実習室 |
| 第28回 11月22日 | 脳神経 脳神経の名称と位置および頭蓋骨に出入りする孔について学ぶ。 【キーワード】第I～XII脳神経 | 渡邊 | 322～331 | 基礎医学 実習室 |
| 第29回 11月29日 | 脳の断層解剖 CTやMRI画像のように、脳を輪切りにした像について学ぶ。 【キーワード】大脳基底核、内包、脳室 | 渡邊 | 310～311 594～595 | 基礎医学 実習室 |
| 第30回 12月6日 | 脳の解剖（復習2） 第23,24,26～29回までの問題演習と解説を行い、学習方法と理解度を点検する。 | 渡邊 | 310～346 439～447 594～595 | 108 |
| 定期試験 | 後期末試験 第16～24,26～30回までの内容をペーパーテストにて実施。 | 渡邊 | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|-----------------------------------|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 生理学 | 2 | 60 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 遠藤 雄三(非常勤) | 解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、病理学 等 | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 人体の健常状態における構造と機能について基本的な事実と法則を学ぶ。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 植物機能系の理解・運動機能系の理解 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>人体の健常状態における構造と機能について基本的な事実と法則を学ぶ。成人のヒトは百兆個以上の細胞の有機的な営みからなる。まず細胞のことを理解する必要がある、現代医学の基盤である細胞生物学について詳細に説明する。細胞の二つの特質である増殖と分化が細胞生物学の根幹である。多細胞系としての組織と循環系の第一の特徴は細胞相互の関係ならびに内部環境の恒常性(液性ホメオスタシスの概念)である。第二の特徴は生体防御能の細胞性ホメオスタシス(免疫系)である。これらの恒常性は、植物機能系により巧みに調節されている。特に「負のフィードバック」による調節は内分泌系と自律神経系により維持されている。植物機能系を基盤にして動物機能系が人間としての営みをつかさどっている。さらにそのヒトのからだ(ボディ)はこころ(マインド)によって人間としての品格を維持している。からだは自動車の部品のように精巧にできている。しかしそれを動かし調節するものは健全なる精神あるいは意思である。生理学の授業時間の前半2/3は植物機能系、後半1/3は運動機能系に関するものである。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| <p>1)坂井建雄・岡田隆夫／著 :系統看護学講座 専門基礎分野1 解剖生理学 人体の構造と機能[1]. 医学書院 2)堺 章／著 :目で見るからだのメカニズム 新訂版. 医学書院 ほか 配布資料有り。</p> | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>前期、毎週月曜日の1, 2限に開講する。授業時間内の退出は原則的に禁止。 教科書を中心に講義を行う。各主題について資料(コピー)を配布することがある。 復習は必須。授業に積極的に参加してください。質問歓迎。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 定期試験(前期末試験)を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|---|----|-----|----------|
| 第1回 4月11日 | <u>細胞生物学の基礎①</u> 細胞とは。エネルギー代謝。細胞の増殖と分化。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第2回 4月11日 | <u>細胞生物学の基礎②</u> 細胞とは。エネルギー代謝。細胞の増殖と分化。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第3回 4月18日 | <u>細胞生物学の基礎③</u> 細胞相互の関係。細胞と間質。内部環境。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第4回 4月18日 | <u>細胞生物学の基礎④</u> 細胞相互の関係。細胞と間質。内部環境。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第5回 4月25日 | <u>血液。体液。免疫。①</u> 単細胞系=血液細胞=免疫細胞:細胞ホメオスタシス | 遠藤 | | 講堂 |
| 第6回 4月25日 | <u>血液。体液。免疫。②</u> 単細胞系=血液細胞=免疫細胞:細胞ホメオスタシス | 遠藤 | | 講堂 |
| 第7回 5月1日 | <u>血液と循環器系①</u> 赤血球の意義。血流と血圧。弾性型動脈と筋型動脈。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第8回 5月1日 | <u>血液と循環器系②</u> 赤血球の意義。血流と血圧。弾性型動脈と筋型動脈。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第9回 5月9日 | <u>呼吸器と血液①</u> 外呼吸と内呼吸。エネルギー代謝と酸塩基平衡。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第10回 5月9日 | <u>呼吸器と血液②</u> 外呼吸と内呼吸。エネルギー代謝と酸塩基平衡。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第11回 5月16日 | <u>消化器(エネルギー代謝と同化・異化)①</u> 消化管内環境と消化管内分泌系。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第12回 5月16日 | <u>消化器(エネルギー代謝と同化・異化)②</u> 消化管内環境と消化管内分泌系。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第13回 5月23日 | <u>内分泌系と腎機能、泌尿器系①</u> 腎機能と液性ホメオスタシス。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第14回 5月23日 | <u>内分泌系と腎機能、泌尿器系②</u> 腎機能と液性ホメオスタシス。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第15回 5月30日 | <u>腎機能とカルシウム代謝①</u> 内分泌系とカルシウム代謝。 | 遠藤 | | 講堂 |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|---|------------|-----|----------|
| 第16回 5月30日 | 腎機能とカルシウム代謝② 内分泌系とカルシウム代謝。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第17回 6月6日 | 動物機能系① 骨格系とカルシウムとビタミンD。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第18回 6月6日 | 動物機能系② 骨格系とカルシウムとビタミンD。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第19回 6月13日 | 骨格筋と神経系① 筋収縮と筋弛緩。心筋の特殊性。 平滑筋と自律神経系。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第20回 6月13日 | 骨格筋と神経系② 筋収縮と筋弛緩。心筋の特殊性。 平滑筋と自律神経系。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第21回 6月20日 | 末梢神経系① 感覚神経系と運動神経系。体制神経系と体性神経系。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第22回 6月20日 | 末梢神経系② 感覚神経系と運動神経系。体制神経系と体性神経系。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第23回 6月27日 | 中枢神経系① 運動機能系と感覚機能系。五感について。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第24回 6月27日 | 中枢神経系② 運動機能系と感覚機能系。五感について。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第25回 7月4日 | 五感と視床下部系と生体防御系とくに免疫系① 体温調節ホメオスタシス。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第26回 7月4日 | 五感と視床下部系と生体防御系とくに免疫系② 体温調節ホメオスタシス。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第27回 7月11日 | 栄養と生活習慣① 個体発生と加齢現象、老化現象。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第28回 7月11日 | 栄養と生活習慣② 個体発生と加齢現象、老化現象。 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第29回 | 呼吸器系 肺気量、ガス交換、酸素解離曲線、酸塩基平衡 | 宮下 | | 講堂 |
| 第30回 | 循環器系 心筋、刺激伝導系、心拍出量、血圧 | 菊池 (校長) | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | 前期末試験 | | | 講堂 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 運動学 | 2 | 60 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科 1年 作業療法学科 1年 | 内田成男／市村真樹／松尾祐介 | 解剖学Ⅰ・Ⅱ, 解剖学実習, 生理学, 心理学, 他 | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 理学療法・作業療法の基礎知識として身体運動のメカニズムについて理解する。 人間の運動・動作・行為について運動学的思考ができるようにする。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 1) 運動学の意味・生体力学の基本・運動器の構造と機能について理解する。 2) 四肢および胸郭・顔面の運動特性を理解し、運動学的に説明できる。 3) 姿勢・運動・動作・行為を観察し、運動学的な表現と分析ができる。 4) 歩行および上肢運動の特徴をとらえ、観察・分析することができる。 (1, 2:前期、3, 4:後期) | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>運動学は身体運動に関わる身体構造とそのメカニズム(仕組み)を理解し、力学的に解釈していく学問で、理学療法・作業療法の重要な基礎科目の一つです。解剖学や生理学と運動させて理解を深め、実際の身体運動で確認しながら学ぶ姿勢が大切です。前期では運動学の基本事項を学び、後期では応用編として、姿勢や運動の意味および観察方法を学びます。</p> <p>初めて学ぶ科目で専門用語も多く難しく感じられますが、可能な限り事例に触れながら、具体的に理解できるように授業を進めていきます。また、運動学で学んだことを臨床応用できるよう、可能な限り予習・復習を心がけ、疑問に感じたことは積極的に質問してください。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| <p>教科書: 中村隆一・他: 基礎運動学(第6版・補訂), 医歯薬出版, 2012.</p> <p>参考書: ①D. A. Neumann 著, 嶋田・他訳: 筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版, ②塩田 悦仁・訳: カバンディ関節の生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 医歯薬出版, ③キルステン・ゲッツ・ノイマン著, 月城慶一・他(訳): 観察による歩行分析, 医学書院,</p> <p><その他の参考図書・文献は随時講義中に紹介する。></p> | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士、作業療法士にとって大切な知識となります。体調管理に努め、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。 ・疑問点、理解不十分な事項は、その場で勇気を持って質問してください。(後回しにしないように) ・受講時は礼儀正しく、清潔な身だしなみ(頭髪、服装、爪など)を心がけましょう。 ・後期は実際の身体運動を行うためT-シャツ、膝の見えるハーフパンツを各自準備してください。 ・学習進度により授業の内容・時間割等を変更する場合には、掲示板、デスクネットなどでお知らせします。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 前期末試験、後期末試験を行う。合計点の60%以上を合格の目安とする。 | | | |
| 小テスト | 0 | 小テストは前期3回を予定しています。重要なポイントを把握し、自己の理解度を確認するために実施するものです。成績不良の場合は、小テストの再試験を実施します。成績には含めませんが、真剣に取り組まましょう。 | | | |
| レポート | * | 必要に応じ課題を提示します。原則として成績評価には含めませんが、著しく不良なレポートは、減点の対象となる場合があります。 | | | |
| 実技試験 | 0 | | | | |
| プレゼンテーション | 0 | | | | |
| その他 | | <p>学習態度が良好である場合には、加点の対象とする場合がある。</p> <p>授業中に他者の学習に迷惑となるような、態度・行動は絶対にしないようにしましょう。(著しい場合には、厳しく対応します。)</p> <p>正当でない理由での欠席は減点の対象とする場合がある。</p> | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|---|----|------------------------|-------------------|
| 第1回 4月6日 | コースオリエンテーションおよび生体力学の基礎① 運動学の意味および基本用語を理解し、力学の基礎を学ぶ。 【キーワード】運動の面と軸、ベクトル、並進運動、回転運動、モーメントなど | 内田 | pp1-35 | 講堂 |
| 第2回 4月13日 | 生体力学の基礎② 運動の法則と身体運動のてこについて理解し、具体例を挙げて説明できる。 【キーワード】運動の法則、テコの原理、重力、仕事、他 | 内田 | pp35-46 | 講堂 |
| 第3回 4月20日 | 運動器の基礎①(骨・関節) 骨・関節の基本構造を図説し、関節の形からの分類と運動自由度について理解する。 【キーワード】骨・関節の基本構造、関節の分類、運動と方向の表現 | 内田 | pp47-72 | 講堂 骨標本 関節模型 |
| 第4回 4月27日 | 運動器の基礎②(筋) 筋・腱・靭帯の基本構造を理解し、骨格筋の収縮機序、運動単位について説明できるようにする。 【キーワード】筋の収縮機序、筋線維の分類、運動単位、筋収縮様態 | 内田 | pp72-88 | 講堂 筋の模型 |
| 第5回 5月11日 | 運動器の基礎③(神経・他) 神経系の基本とシナプスおよび運動を調整するための反射活動等について理解する。 【キーワード】中枢神経、末梢神経、シナプス、伸張反射、随意運動 | 内田 | pp88-154 | 講堂 脳・神経 の模型 |
| 第6回 5月18日 | 確認Ⅰ 生体力学と運動器の基礎のまとめ 第1回から5回目までの講義の要点の復習、 第1～5回目までの小テストを実施。 | 内田 | pp19-154 | 講堂 |
| 第7回 5月25日 | 上肢帯と肩関節の運動 上肢帯(肩甲骨)と肩関節の構造を把握し、その運動の特性について説明できる。【キーワード】肩複合体、肩甲骨と肩甲上腕関節の動き、筋の作用 | 内田 | pp213-224 | 講堂 骨標本 |
| 第8回 6月1日 | 肘関節・前腕の運動 肘関節と前腕の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【キーワード】腕尺・腕橈・上橈尺・下橈尺関節、肘角、筋の作用 | 松尾 | pp224-229 | 講堂 骨標本 |
| 第9回 6月8日 | 手関節・手の運動① 手関節・手指の構造を把握する。 【キーワード】手根管、CM関節、MP関節、IP関節、手外在筋、手内在筋、手のアーチ、筋の作用、手の変形 | 松尾 | pp229-245 | 講堂 骨標本 |
| 第10回 6月15日 | 手関節・手の運動② 確認Ⅱ 上肢の運動学のまとめ 第9回の続き:手関節・手指の運動特性について説明できる。【キーワード】手外在筋、手内在筋、手のアーチ、筋の作用、手の変形 第7～10回目までの小テストを実施 | 松尾 | pp229-245 pp213-245 | 講堂 骨標本 |
| 第11回 6月22日 | 股関節の運動 股関節の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【キーワード】股関節のアライメント、靭帯とその働き、股関節の動き、二関節筋 | 内田 | pp246-256 | 講堂 骨標本 治療台 |
| 第12回 6月29日 | 膝関節の運動 膝関節の構造を把握し、その運動特性について説明できる。 【キーワード】脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節、膝関節のアライメント、靭帯とその働き、rollingとsliding | 内田 | pp256-260 | 講堂 骨標本 治療台 |
| 第13回 7月6日 | 足関節と足部の運動 足関節・足部の構造を把握し、その運動特性について説明できる。【キーワード】距腿関節、距骨下関節、シヨパール関節、リスフラン関節、内がえし、外がえし、足のアーチ | 内田 | pp260-271 | 講堂 骨標本 治療台 |
| 第14回 7月13日 | 下肢の運動学まとめ 確認Ⅲ 下肢の運動学のまとめ 下肢運動学の重要事項の再確認。 第11～13回目までの小テストを実施 | 内田 | pp246-271 | 講堂 |
| 第15回 7月20日 | 顔面と胸郭の運動学・前期授業のまとめ(重要ポイント提示と演習) 顎関節・顔面筋の機能解剖、胸郭(呼吸)運動の特性について説明できる。【キーワード】顎関節、咀嚼、咬筋、表情筋、肋椎関節、 | 内田 | pp293-296 前期分全体 | 講堂 骨標本 |
| 定期試験 | 前期末試験 | 内田 | 上記の指定ページ | 講堂 骨標本 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 運動学 | 2 | 60 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年生 作業療法学科1年生 | 市村 真樹 内田 成男 市村 紋子 | 解剖学Ⅰ・Ⅱ, 解剖学実習, 生理学, 心理学 | | | |
| 一般目標 (GIO) | 正常な身体運動とそのメカニズムについて理解し、理学療法・作業療法の基礎としての知識を身につける。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脊柱と体幹機能を通して姿勢を考える。 2. 運動、動作、行為をそれぞれ観察し意味を理解する。 3. 観察した運動をスティックピクチャーで示すことが出来る。 4. 歩行の特徴をとらえ、観察することが出来る。 5. 上肢の到達・把持動作の特徴を捉え、観察することが出来る | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>運動学後期では、前期で学んだ「身体構造とそのメカニズム(仕組み)」を使って、運動や姿勢の意味や観察の仕方を学びます。運動や姿勢を理解することは、理学療法・作業療法の基礎であり大変重要です。また、専門用語や力学的解釈に加え、臨床応用にも触れていきます。可能な限り、予習を心がけてください。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| <p>教科書: 中村隆一・他: 基礎運動学(第6版・補訂), 医歯薬出版 参考書: ①D. A. Neumann著, 嶋田・他訳: 筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版, ②塩田 悦仁・訳: カパンディ関節の生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 医歯薬出版, ③キルステン・ゲッツ・ノイマン著, 月城慶一・他(訳): 観察による歩行分析, 医学書院, <その他の参考図書・文献は随時講義中に紹介する。></p> | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>体調管理をしっかり行い、休まずに受講して下さい。 受講時は礼儀正しく、清潔な身だしなみ(頭髪、服装、爪など)を心がけましょう。身体を動かしながらの講義になるので、T-シャツ、膝の見えるハーフパンツを使用します。各自準備をお願いします。 進度に応じて、内容、時間割を変更することがあります。その際は、掲示板、デスクネットなどでお知らせします。注意深く見ておくようにして下さい。 このシラバスは後期分です。前期分は既に配布されています。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | <p>前期末試験、後期末試験を行い、合計120点以上を合格の目安とします。 本試験で不合格の場合、再試験を実施しますが、合格者の成績は試験規程に準じて60点として扱います。</p> | | | |
| 小テスト | 0 | | | | |
| レポート | 0 | | | | |
| 実技試験 | 0 | | | | |
| プレゼンテーション | 0 | | | | |
| その他 | ※ | 授業内で、周囲に対しての迷惑行為、居眠りは減点の対象となります。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|-------|----------------------------|----------|
| 第16回 8月30日 | イントロダクション 「姿勢制御とその異常」①姿勢とその制御 【キーワード】 姿勢制御・システム理論・相互作用 | 市村(真) | 基礎運動学 PP347-377 配布資料 | 講堂 |
| 第17回 9月6日 | 「姿勢制御とその異常」 ②脊柱の機能解剖 【キーワード】 椎体・生理的前彎・脊柱の靭帯 | 市村(真) | 基礎運動学 PP347-377 配布資料 | 講堂 |
| 第18回 9月13日 | 「姿勢制御とその異常」 ③重心 【キーワード】 重心・支持基底・位置エネルギー・運動エネルギー | 市村(真) | 基礎運動学 PP347-377 配布資料 | 講堂 |
| 第19回 9月20日 | 「基本動作の種類と分析」 ①関節運動 【キーワード】運動・動作・行為 関節運動的視点 | 市村(真) | 基礎運動学 PP297-325 配布資料 | 講堂 |
| 第20回 9月27日 | 「運動学習」 ①運動制御と運動学習の理論について制御する 【キーワード】 学習 記憶 運動技能 フィードバック KR PK | 内田 | 基礎運動学 PP467-500 配布資料 | 講堂 |
| 第21回 10月4日 | 「運動学習」 ②運動学習の神経学的基礎と練習効果について理解する 【キーワード】 練習課題 学習曲線 動機づけ 転移 | 内田 | 基礎運動学 PP467-500 配布資料 | 講堂 |
| 第22回 10月11日 | 「基本動作の種類と分析」 ②筋活動 【キーワード】筋活動的視点 | 市村(真) | 基礎運動学 PP297-325 配布資料 | 講堂 |
| 第23回 10月18日 | 「基本動作の種類と分析」 ③スティックピクチャー 【キーワード】動作分析・行程分析 | 市村(真) | 基礎運動学 PP297-325 配布資料 | 講堂 |
| 第24回 10月25日 | 「基本動作の種類と分析」 ④椅子からの立ち上がり 【キーワード】重心・支持基底・相 | 市村(真) | 基礎運動学 PP297-325 配布資料 | 講堂 |
| 第25回 11月1日 | 「観察による歩行分析」 ①歩行周期 【キーワード】健常歩行・歩行周期・歩行の条件 | 市村(真) | 基礎運動学 PP379-439 配布資料 | 講堂 |
| 第26回 11月8日 | 「観察による歩行分析」 ②パッセンジャーとロコモーター 【キーワード】 | 市村(真) | 基礎運動学 PP379-439 配布資料 | 講堂 |
| 第27回 11月15日 | 「観察による歩行分析」 ③歩行中の各関節の運動 【キーワード】ロッカーファンクション・骨盤 | 市村(真) | 基礎運動学 PP379-439 配布資料 | 講堂 |
| 第28回 11月22日 | 「観察による歩行分析」 ④観察による歩行分析 【キーワード】異常歩行 | 市村(真) | 基礎運動学 PP379-439 配布資料 | 講堂 |
| 第29回 11月29日 | 「観察による上肢の動作分析」①到達(リーチ)動作の観察 【キーワード】運動制御・各関節の役割・姿勢 | 市村(紋) | 基礎運動学 PP241-243 配布資料 | 講堂 |
| 第30回 12月6日 | 「観察による上肢の動作分析」②把持動作の観察 【キーワード】把握パターン・知覚・リーチと把持の協調 | 市村(紋) | 基礎運動学 PP241-243 配布資料 | 講堂 |
| 定期試験 | | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|---|---|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 運動生理学実習 | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 赤岩龍士 青山勝二 (外部講師) | 運動学・生理学 | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 運動が人体に与える変化や影響について実習を通し理解を深める。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 以下の分野について、必要な知識を整理・習得する。 1. 体力の定義を理解する。 2. 体力測定を実施し、その結果から得られる情報を整理する。 3. さまざまな体力の視点を踏まえ、運動処方を作成し、集団に対する指導を経験する。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>運動生理学(Exercise Physiology)とは、「運動に関わる生理学」です。本講義における運動とは、身体活動(physical activity)であり、運動生理学は「運動と身体の相互に生じる効果や影響を研究する学問」といえます。そして、運動の効果や影響には望ましいものとそうでないものがあり、「健康」の概念から運動生理学を学んで欲しいと思います。体力テストを行い、その結果を踏まえた運動処方の考案、指導ができることを最終目標としています。また、集団に対する運動指導もOT・PTに求められる技能といえます。処方を受ける側からの視点や印象も大切なので、元気よく楽しくできるような各自工夫をしてください。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| <p>教科書:オリジナル資料集 参考書:基礎運動学第6版(医歯薬出版)</p> | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>実技の授業では、部分的に運動強度が高い場合がありますので、普段から健康管理を行うとともに、体調がすぐれない場合は無理をしないよう心がけてください。また、運動ができる服装、室内用運動靴、タオルを用意してください。第8回、第10回、第12回は、クラス毎に実施順が異なりますので、日程が違う場合があります。第10回、12回は外部講師の青山先生が行いますが、10月28日、11月11日、25日の3日間で2回受講することになります。第9回、第11回、第13回は、グループごとで実習を行うので、実施順序が異なります。変則的な予定なので、間違えないよう注意して下さい。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 0 | | | | |
| 小テスト | 0 | | | | |
| レポート | 50 | グループごとに作成した運動処方を第15回終了時に提出 | | | |
| 実技試験 | 0 | | | | |
| プレゼンテーション | 50 | 第15回で実施する運動処方での発表状況、参加状況 | | | |
| その他 | * | 授業に対する迷惑行為、正当でない理由での遅刻・欠席、無礼な受講態度 などは減点の対象とする場合があります。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|--------------------|-----|-------------|
| 第1回 8月26日 | <u>コースオリエンテーション</u> 運動生理学概論・筋生理学 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第2回 9月2日 | <u>体力とは</u> 「体力」の定義について学ぶ。 【キーワード】体力要素・行動体力・防衛体力 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第3回 9月9日 | <u>体力測定</u> 体力測定の目的、方法についてを学ぶ。 【キーワード】新体力テスト・身体機能評価・身体組成 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第4回 9月16日 | <u>身体機能評価実習①</u> 文部科学省新体力テスト、スポーツテスト、を実施する。 【キーワード】瞬発力・柔軟性・バランス | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第5回 9月23日 | <u>身体機能評価実習②</u> 文部科学省新体力テスト、スポーツテストを実施する。 【キーワード】全身持久力・敏捷性・最大酸素摂取量 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第6回 10月7日 | <u>身体機能評価実習③</u> 文部科学省新体力テスト、スポーツテストを実施する。 【キーワード】全身持久力・敏捷性・最大酸素摂取量 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第7回 10月14日 | <u>体力測定のまとめ</u> 文部科学省新体力テストの結果を分析する。 【キーワード】最大酸素摂取量・体力年齢・目標心拍数 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第8回 10月28日 | <u>柔軟性について</u> 柔軟性について学ぶ。 【キーワード】ストレッチング・I b抑制・相反神経抑制 | 赤岩 青山 (外部講師) | 資料集 | 講堂 機能訓練室 |
| 第9回 11月4日 | <u>筋力と持久力について①</u> アイソフォース、トレッドミル、エルゴメトリーを用いた測定法。 【キーワード】WBI、VO2max、PWC170 | 赤岩 | 資料集 | 機能訓練室 |
| 第10回 11月11日 | <u>有酸素運動について①</u> エアロビック運動を体験する。 【キーワード】集団運動・有酸素運動 | 青山 (外部講師) | 資料集 | 講堂 |
| 第11回 11月18日 | <u>筋力と持久力について②</u> アイソフォース、トレッドミル、エルゴメトリーを用いた測定法。 【キーワード】WBI、VO2max、PWC170 | 赤岩 | 資料集 | 機能訓練室 |
| 第12回 11月25日 | <u>有酸素運動について②</u> 集団への運動指導について学ぶ。 【キーワード】集団運動指導・リスク管理・プログラム立案 | 青山 (外部講師) | 資料集 | 講堂 |
| 第13回 12月2日 | <u>筋力と持久力について③</u> アイソフォース、トレッドミル、エルゴメトリーを用いた測定法。 【キーワード】WBI、VO2max、PWC170 | 赤岩 | 資料集 | 機能訓練室 |
| 第14回 12月8日 | <u>運動処方</u> 集団に対する運動処方を考案・作成する。 【キーワード】運動処方・集団指導案作成 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |
| 第15回 12月15日 | <u>集団に対する運動処方と運動指導</u> 集団に対する運動処方を行い、指導する。 【キーワード】運動処方・集団指導実践 | 赤岩 | 資料集 | 講堂 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 人間発達学 | 2 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 中村 直人 | 心理学、臨床心理学 | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 人間の生涯にわたる変化を心の発達を中心に学ぶ。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達の考え方と発達理論について理解する。 2. 出生から死までのライフサイクルの中で、それぞれの時期の問題点について理解する。 3. 主な心理機能(知覚、学習、記憶、情緒など)毎の発達について理解する。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>私たちの身体と心は、誕生から死まで、絶えず変化しています。その間に、私たちは驚くほど沢山のことを経験し成長します。したがって、ある意味で人間は生涯を通して発達していると言え、この考え方は現在の主流となっています。このような、人生を通して経験する身体と心の変化(生涯発達)の特徴について学びます。</p> <p>前期の心理学と同様に、様々な分野に分散して国家試験に出題されます。しっかり取り組んで下さい。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書は使用せず、プリントを配布します。 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 時間変更等の連絡はデスクネッツ(本校で使用されているポータルサイト)のみで行います。一日に数度はチェックするよう心がけて下さい。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 後期末試験を行います。100点満点の60点以上を合格とします。 | | | |
| 小テスト | * | 二回の小テストを行います。定期試験に沿った出題をしますので、評価には含めませんが真面目に受けて下さい。不真面目な答案は減点の対象となる場合があります。 | | | |
| レポート | 0 | | | | |
| 実技試験 | 0 | | | | |
| プレゼンテーション | 0 | | | | |
| その他 | * | 質問等の積極的な姿勢は加点の対象とする場合があります。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|----|------|----------|
| 第1回 8月26日 | 人間発達とは何か(人間発達の考え方とその研究方法について学ぶ) KW:ライフサイクル、生涯発達 | 中村 | プリント | 101 |
| 第2回 9月2日 | 発達理論(PiagetとEriksonの発達理論について学ぶ) KW:中心化、保存、発達課題、危機 | 中村 | プリント | 101 |
| 第3回 9月9日 | 出生と乳児期(胎児期・新生児期の注意点と発達の評価法について学ぶ) KW:TORCH症候群、在胎週数評価、新生児行動評価 | 中村 | プリント | 101 |
| 第4回 9月16日 | 乳児期・幼児前期Ⅰ(自他の概念の獲得に関係するこの時期特有の行動について学ぶ) KW:アタッチメント、ストレンジ・シチュエーション、移行 | 中村 | プリント | 101 |
| 第5回 9月23日 | 乳児期・幼児前期(乳幼児発達の神経科学的知見についてビデオにて学ぶ) | 中村 | プリント | 101 |
| 第6回 10月7日 | 幼児後期(様々な認知機能が大きく変化するこの時期特有の行動・思考について学ぶ) KW:自己中心性、頭足人、遊び | 中村 | プリント | 101 |
| 第7回 10月14日 | 学童期(集団生活の中で必要な社会的側面と学校の役割について学ぶ) KW:感情調節、友人関係、道徳性、学校教育 | 中村 | プリント | 107 |
| 第8回 10月28日 | 第一回小テスト(人間発達とは何か、発達理論、出生と乳児期～学童期) 1～7回までの内容の確認と解説行う | 中村 | | 107 |
| 第9回 11月4日 | 青年期(自我を確立し、社会へ出て行く準備を行うこの時期特有の問題について学ぶ) KW:自我同一性、モラトリアム | 中村 | プリント | 107 |
| 第10回 11月11日 | 中年期(比較的安定した時期と考えられてきたこの時期が様々な問題を抱えていることを学ぶ) KW:中年の危機、中年期のライフイベント | 中村 | プリント | 107 |
| 第11回 11月18日 | 老年期Ⅰ(加齢により様々な能力が低下するといわれるが、必ずしもそうでないことを学ぶ) KW:結晶性知能、流動性知能、終末低下説、知恵と熟練 | 中村 | プリント | 101 |
| 第12回 11月25日 | 老年期Ⅱ(人生の末期を迎え、幸福感と死の受容について学ぶ) KW:生活満足度尺度、PGGモラール尺度、死の受容、ターミナルケア | 中村 | プリント | 101 |
| 第13回 12月2日 | 感覚・知覚・記憶の発達(感覚・知覚・記憶に絞って心理現象の発達について学ぶ) | 中村 | プリント | 講堂 |
| 第14回 12月8日 | 情緒・動機づけの発達(情緒・動機づけに絞って心理現象の発達について学ぶ) | 中村 | プリント | 101 |
| 第15回 12月15日 | 第二回小テスト(青年期～老年期、感覚・知覚・記憶・情緒・動機づけの発達) 9～14回までの内容の確認と解説を行う | 中村 | | 107 |
| 定期試験 | 後期末試験 | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|---------------------|-------------------------------------|----|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 病理学 | | 2 | 60 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 遠藤 雄三(非常勤) | 生理学、内科学Ⅰ、内科学Ⅱ 等 | | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 病理形態学の基本となる問題点を理解する | | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 腫瘍、免疫、炎症、アレルギー 等 | | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | | |
| <p>現代の病理学は病理形態学である。疾病を「かたち」として理解する学問分野であり、それを臨床に応用することで疾病の理解と治療に資する。すなわち病理形態学は疾病を肉眼的ならびに主として光学顕微鏡的に観察した事実を総括的に理解する実学である。そのためには実験的研究の情報も必須とする。病理形態学にかかわる医学的な情報は過去約150年の蓄積である。それらのすべてを60時間の講義でおこなうことは実際的に不可能であり、講義であつかう主題はおのずから限られたものにならざるをえない。したがって私は病理形態学の基本となる問題点を重点的に講義し、講義中に納得していただき、自学自習できることを目的とする。</p> | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | |
| <p>1)大橋健一他/著:系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第5版. 医学書院 2)堺 章/著:目で見るとからだのメカニズム 改訂版. 医学書院 ほか 配布資料有り。解剖生理学の教科書は必携。</p> | | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | | |
| <p>後期、毎週月曜日の1, 2限に開講する。講義時間内の退出は原則的に禁止。 教科書を中心に講義をおこなうが、目次順にはおこなわない。各主題にあった資料を配布する。生理学を復習しながら病気と病態(疾病)について説明する。 復習は必須である。講義には積極的に参加してください。質問歓迎。</p> | | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | | |
| 定期試験 | 100 | 定期試験(後期末試験)を行う。 | | | | |
| 小テスト | | | | | | |
| レポート | | | | | | |
| 実技試験 | | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | | |
| (合計) | 100 | | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--------------------------------------|----|-----|----------|
| 第1回 8月29日 | 生理学から病理学へ。細胞病理学。細胞と組織の染色法と光学顕微鏡。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第2回 8月29日 | 生理学から病理学へ。細胞病理学。細胞と組織の染色法と光学顕微鏡。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第3回 9月5日 | 腫瘍論(がんとは何か)。細胞の増殖と分化。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第4回 9月5日 | 腫瘍論(がんとは何か)。細胞の増殖と分化。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第5回 9月12日 | 発がん要因。がん治療。がん予防。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第6回 9月12日 | 発がん要因。がん治療。がん予防。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第7回 9月26日 | 免疫ホメオスタシスと過剰免疫反応としてのアレルギー各型。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第8回 9月26日 | 免疫ホメオスタシスと過剰免疫反応としてのアレルギー各型。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第9回 10月3日 | 外からの炎症:感染。内なる炎症:アレルギー。免疫担当細胞。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第10回 10月3日 | 外からの炎症:感染。内なる炎症:アレルギー。免疫担当細胞。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第11回 10月17日 | アレルギー(過剰な免疫反応)。自己免疫疾患。臓器移植。骨髄移植。輸血。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第12回 10月17日 | アレルギー(過剰な免疫反応)。自己免疫疾患。臓器移植。骨髄移植。輸血。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第13回 10月24日 | 循環障害:心血管系。心筋梗塞。狭心症。高血圧症。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第14回 10月24日 | 循環障害:心血管系。心筋梗塞。狭心症。高血圧症。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第15回 10月31日 | 循環障害:動脈硬化症。腎疾患。① | 遠藤 | | 講堂 |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|---------------------------------------|----|-----|----------|
| 第16回 10月31日 | 循環障害:動脈硬化症。腎疾患。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第17回 11月7日 | 内分泌代謝疾患として高血圧症。生活習慣病としての糖尿病。 ① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第18回 11月7日 | 内分泌代謝疾患として高血圧症。生活習慣病としての糖尿病。 ② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第19回 11月14日 | 内分泌代謝疾患としての高脂血症。メタボリック症候群。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第20回 11月14日 | 内分泌代謝疾患としての高脂血症。メタボリック症候群。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第21回 11月21日 | 各論としての肝硬変症。肝機能障害としての黄疸。門脈圧亢進症。① *祝日授業 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第22回 11月21日 | 各論としての肝硬変症。肝機能障害としての黄疸。門脈圧亢進症。② *祝日授業 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第23回 11月28日 | 各論としての慢性腎不全。カルシウム代謝障害。① *祝日授業 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第24回 11月28日 | 各論としての慢性腎不全。カルシウム代謝障害。② *祝日授業 | 遠藤 | | 講堂 |
| 第25回 12月5日 | 運動器疾患(骨代謝障害)。関節リウマチとアミロイドーシス。多発性骨髄腫。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第26回 12月5日 | 運動器疾患(骨代謝障害)。関節リウマチとアミロイドーシス。多発性骨髄腫。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第27回 12月12日 | 運動器疾患(関節、骨格筋)。運動神経疾患。加齢現象と老化。 ① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第28回 12月12日 | 運動器疾患(関節、骨格筋)。運動神経疾患。加齢現象と老化。 ② | 遠藤 | | 講堂 |
| 第29回 12月19日 | 先天異常。減数分裂。染色体異常。メンデルの法則。心奇形と慢性の肺うっ血。① | 遠藤 | | 講堂 |
| 第30回 12月19日 | 先天異常。減数分裂。染色体異常。メンデルの法則。心奇形と慢性の肺うっ血。② | 遠藤 | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | 後期末試験 | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|-------------------------------|------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 臨床心理学 | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 鷺山 英之(非常勤) | 心理学 ほか | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 臨床心理学の概要を理解し、臨床心理学的視点を身につける。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | クライアント理解の基本的視点、援助のための理論や具体的方法 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| クライアント理解の基本的視点を獲得し、援助のための理論や具体的方法を身につけていただきたい。授業内では、ワークなどを積極的に取り入れていく予定であるので、受講生の皆さんの積極的な参加を希望する。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 森谷寛之・赤塚大樹・岸良範・増井武士 / 共著：医療・看護系のための心理学. 培風館. | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 後期、水曜1・2時限に開講します。教科書、配布資料を基にした講義とワークを行います。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | 100 | レポート課題を採点します。 | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 出席状況、参加の仕方、試験を行った場合にはその成績なども考慮します。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|-------------------------------|----|-----|----------|
| 第1回 9月7日 | 臨床心理学とは | 鷺山 | | 講堂 |
| 第2回 9月7日 | 臨床心理学の理論的背景(1) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第3回 9月21日 | 臨床心理学の理論的背景(2) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第4回 9月21日 | 臨床心理学の理論的背景(3) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第5回 10月5日 | 心理アセスメント (1)行動観察法、面接 | 鷺山 | | 講堂 |
| 第6回 10月5日 | 心理アセスメント (2)質問紙法 | 鷺山 | | 講堂 |
| 第7回 10月19日 | 心理アセスメント (3)投影法 | 鷺山 | | 講堂 |
| 第8回 10月19日 | 心理アセスメント (4)知能検査、発達検査 | 鷺山 | | 講堂 |
| 第9回 11月9日 | 心理療法 (1) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第10回 11月9日 | 心理療法 (2) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第11回 11月30日 | 心理療法 (3) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第12回 11月30日 | 心理療法 (4) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第13回 12月7日 | 心理臨床的問題 (1) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第14回 12月7日 | 心理臨床的問題 (2) | 鷺山 | | 講堂 |
| 第15回 12月14日 | 総括 <u>※1時限目のみ(9:00~10:30)</u> | 鷺山 | | 講堂 |
| 定期試験 | (*実施しない) | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|--------------------------|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 内科学 I | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 青木 秀剛(非常勤) 金井 玉奈(非常勤) | 解剖学Ⅱ、生理学、病理学 | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 内科疾患の理解 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 消化器疾患・循環器疾患・呼吸器疾患 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 医学の中心的学問である。内科学における症候学、診断、治療を理解するとともに、リハビリテーションとの関連性を理解する。内科学講義 I では、特に教科書の第1章～第7章までの内科学概論と症候学・循環器・呼吸器疾患・消化器疾患・肝胆膵疾患について学ぶ。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 前田 眞治／著 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版 医学書院 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 後期に開講します。 青木:木曜日3時限目(13:00～14:30) 金井:木曜日2時限目(10:40～12:10)・第11～14回は金曜日3・4時限(13:00～16:10) | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 後期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|----------------|---------------|-----|----------|
| 第1回 9月8日 | 消化管疾患 1 | 青木 | | 講堂 |
| 第2回 10月6日 | 消化管疾患 2 | 青木 | | 講堂 |
| 第3回 10月20日 | 消化管疾患 3+補足 | 青木 | | 講堂 |
| 第4回 11月17日 | 肝胆膵疾患 1 | 青木 | | 講堂 |
| 第5回 12月1日 | 肝胆膵疾患 2+補足 | 青木 | | 講堂 |
| 第6回 9月1日 | 呼吸器疾患 1 | 金井 | | 講堂 |
| 第7回 9月15日 | 呼吸器疾患 2 | 金井 | | 講堂 |
| 第8回 10月6日 | 呼吸器疾患 3 | 金井 | | 講堂 |
| 第9回 10月20日 | 呼吸器疾患 4 | 金井 | | 講堂 |
| 第10回 11月10日 | 循環器疾患 1 | 金井 | | 講堂 |
| 第11回 12月9日 | 循環器疾患 2 | 金井 | | 講堂 |
| 第12回 12月9日 | 循環器疾患 3 | 金井 | | 講堂 |
| 第13回 12月16日 | 循環器疾患 4 | 金井 | | 講堂 |
| 第14回 12月16日 | 循環器疾患 5 | 金井 | | 講堂 |
| 第15回 未定 | 内科疾患とリハビリテーション | *専任教員 (予定) | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | 後期末試験 | | | 講堂 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|------------------------------|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 整形外科学 I | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 吉見 秀一(非常勤) | 解剖学 I、解剖学実習、運動学、整形外科学 II ほか | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 外傷性疾患を中心に、整形外科の検査、治療法等を理解する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 骨折、関節の外傷、末梢神経損傷、靭帯損傷 など | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 整形外科の概論を理解するとともに、検査(画像含む)、治療法(保存的、手術、薬物)等の概略を学習する。また、疾患ごとの各論を学び、臨床に即した知識の整理をする。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 立野勝彦／著:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第3版. 医学書院. | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 後期。木曜3・4時限に開講します。(※13:30~16:40) この授業は、3時限目の開始時間が13:30となっています。注意して下さい。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 後期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|-----------------------------|----|-----|----------|
| 第1回 9月1日 | 骨折 | 吉見 | | 講堂 |
| 第2回 9月1日 | 骨折 | 吉見 | | 講堂 |
| 第3回 9月15日 | 関節における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第4回 9月15日 | 関節における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第5回 9月29日 | 関節における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第6回 9月29日 | 末梢神経における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第7回 10月13日 | 末梢神経における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第8回 10月13日 | 末梢神経における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第9回 10月27日 | 腱・靭帯における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第10回 10月27日 | 腱・靭帯における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第11回 11月10日 | 腱・靭帯における外傷性疾患 | 吉見 | | 講堂 |
| 第12回 11月10日 | スポーツ障害 | 吉見 | | 講堂 |
| 第13回 11月24日 | 熱傷 | 吉見 | | 講堂 |
| 第14回 11月24日 | 熱傷 | 吉見 | | 講堂 |
| 第15回 12月8日 | まとめ ※4時限目のみ(14:40~16:10) | 吉見 | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | | | | 講堂 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|-------------------------|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 精神医学 I | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 望月 美和(非常勤) | 精神医学Ⅱ ほか | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 精神医学における症候学、診断、治療を理解する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 脳器質性精神障害、統合失調症 ほか | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 精神医学における症候学、診断、治療を理解し、理学療法・作業療法との関連性の理解を深める。特に教科書の第1章～第9章までを学ぶ。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 上野武治／編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版. 医学書院 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 前期、木曜日1・2時限目に開講します。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 前期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|------------------------------------|----|-----|----------|
| 第1回 4月7日 | 第1章 精神医学とは 第2章 精神障害の成因と分類 | 望月 | | 講堂 |
| 第2回 4月7日 | 第3章 精神機能の障害と精神症状 第4章 精神障害の診断と評価 | 望月 | | 講堂 |
| 第3回 4月14日 | 第5章 脳器質性精神障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第4回 4月14日 | 第5章 脳器質性精神障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第5回 4月28日 | 第5章 脳器質性精神障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第6回 4月28日 | 第5章 脳器質性精神障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第7回 5月12日 | 第6章 症候性精神障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第8回 5月12日 | 第7章 精神作用物質による精神及び行動の障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第9回 5月26日 | 第7章 精神作用物質による精神及び行動の障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第10回 5月26日 | 第8章 てんかん | 望月 | | 講堂 |
| 第11回 6月9日 | 第9章 統合失調症およびその関連障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第12回 6月9日 | 第9章 統合失調症およびその関連障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第13回 6月23日 | 第9章 統合失調症およびその関連障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第14回 6月23日 | 第9章 統合失調症およびその関連障害 | 望月 | | 講堂 |
| 第15回 7月7日 | 第9章 国家試験問題について *3時限目 | 望月 | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|-------------------------|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 精神医学Ⅱ | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 金井 玉奈(非常勤) | 精神医学Ⅰ ほか | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 精神医学における症候学、診断、治療を理解する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 気分障害、神経症性障害 ほか | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 精神医学における症候学、診断、治療を理解するとともにPT、OTとの関連性を理解する。 精神医学Ⅱでは、特に教科書の第10章～第21章までを学ぶ。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 上野武治／編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版. 医学書院. | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 後期:おおよそ隔週水曜日3・4時限(13:00～16:10)に開講します。第15回は4時限のみ。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 後期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|-----------------------------|----|-----|----------|
| 第1回 8月31日 | 第10章 気分(感情)障害 | 金井 | | 講堂 |
| 第2回 8月31日 | 第10章 気分(感情)障害 | 金井 | | 講堂 |
| 第3回 9月21日 | 第11章 神経症性障害 | 金井 | | 講堂 |
| 第4回 9月21日 | 第11章 神経症性障害 | 金井 | | 講堂 |
| 第5回 10月5日 | 第12章 生理学的障害及び身体的要因に関連した障害 | 金井 | | 講堂 |
| 第6回 10月12日 | 第13章 成人の人格・行動・性の障害 | 金井 | | 講堂 |
| 第7回 10月12日 | 第14章 精神遅滞 | 金井 | | 講堂 |
| 第8回 10月26日 | 第15章 心理的発達の障害 | 金井 | | 講堂 |
| 第9回 10月26日 | 第16章 リエゾン精神医学 | 金井 | | 講堂 |
| 第10回 11月9日 | 第17章 心身医学 | 金井 | | 講堂 |
| 第11回 11月9日 | 第18章 ライフサイクルにおける精神医学 | 金井 | | 講堂 |
| 第12回 11月30日 | 第19章 精神障害の治療とリハビリテーション | 金井 | | 講堂 |
| 第13回 11月30日 | 第19章 精神障害の治療とリハビリテーション | 金井 | | 講堂 |
| 第14回 12月7日 | 第20章 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション | 金井 | | 講堂 |
| 第15回 12月7日 | 第21章 社会・文化とメンタルヘルス *4時限のみ | 金井 | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--------------------------|-------------------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 脳神経外科学 | 1 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 作業療法学科1年 | 齋藤 勇 (非常勤) 井上 聖啓(非常勤) | 解剖学Ⅱ、生理学、神経内科学 ほか | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 脳外科学における症候学、診断、治療を理解する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 脳腫瘍、頭部外傷、脳血管障害 ほか | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| 神経系の解剖・生理に関する正常の形態と機能を理解する。神経系の腫瘍・血管障害・外傷・機能的疾患・奇形などの主要疾患について、その病態と治療法を理解する。脳外科学における症候学、診断、治療を理解するとともにPT、OTとの関連性を理解する。 | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 児玉南海雄／監修、佐々木富男他／編集:標準脳神経外科学 第13版. 医学書院. | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 後期に開講します。 齋藤:後期(水曜3, 4時限) 井上:後期(不定1, 2時限) | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 後期末試験を行う。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|---------------------------------------|----|-----|----------|
| 第1回 9月14日 | 3時限目 脳神経外科総論Ⅰ 脳の解剖と機能(1) | 齋藤 | | 講堂 |
| 第2回 9月14日 | 4時限目 脳神経外科総論Ⅲ 補助診断法 ー画像診断を中心ー | 齋藤 | | 講堂 |
| 第3回 9月28日 | 1時限目 脳神経外科総論Ⅱ 神経学的診断 | 井上 | | 講堂 |
| 第4回 9月28日 | 2時限目 脳神経外科総論Ⅶ 脊髄の解剖と機能+自律神経 | 井上 | | 講堂 |
| 第5回 9月29日 | 1時限目 脊髄・脊椎疾患 | 井上 | | 講堂 |
| 第6回 9月29日 | 2時限目 先天奇形、水頭症、髄液、脳動脈などパーキンソンなど神経内科的疾患 | 井上 | | 講堂 |
| 第7回 10月19日 | 3時限目 脳神経外科総論Ⅳ 脳特有の症状と病態 | 齋藤 | | 講堂 |
| 第8回 10月19日 | 4時限目 脳神経外科総論Ⅴ 脳の解剖と機能(2) | 齋藤 | | 講堂 |
| 第9回 10月21日 | 1時限目 脳神経外科総論Ⅵ 「脳神経」の解剖と機能 | 齋藤 | | 講堂 |
| 第10回 10月21日 | 2時限目 脳腫瘍 | 齋藤 | | 講堂 |
| 第11回 11月16日 | 3時限目 頭部外傷 | 齋藤 | | 講堂 |
| 第12回 11月16日 | 4時限目 脳血管障害Ⅰ | 齋藤 | | 講堂 |
| 第13回 12月14日 | 3時限目 脳血管障害Ⅱ | 齋藤 | | 講堂 |
| 第14回 12月15日 | 4時限目 まとめⅠ | 齋藤 | | 講堂 |
| 第15回 未定 | まとめⅡ ※専任教員でおこなう。 | | | 講堂 |
| 定期試験 未定 | 後期末試験 | | | |

富士リハビリテーション専門学校
平成28年度 授業計画書(シラバス)

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|--|----------------------------|----|-------|-------|
| 専門基礎 | リハビリテーション概論 | 2 | 30 | 必修 | |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 菊池和也 | リハビリテーションの基礎になる重要な科目である | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 現代の医療・福祉分野におけるリハビリテーションを理解する | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 1. 医療関連職種の基本を身につける 2. リハビリテーションの語源・歴史・定義がわかる 3. 障害分類を理解する 4. リハビリテーションの領域、進め方がわかる 5. 障害受容の心理過程がわかる 6. 関連法規・倫理がわかる | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>この授業はリハビリテーションの基礎となる概念、考え方、障害などを学習する科目である。重要な科目であるので集中して授業に参加すること。また、講義に加えてグループワーク、演習、討論、プレゼンテーションなども実施することがある。積極的に意見など述べること。自分の意見を述べる、人の意見を聞くことは理学療法士、作業療法士など医療職には不可欠なことであるので積極的な参加を望む。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書:①医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版 (永井書店)、②国際生活機能分類 国際障害分類改訂版一 (中央法規) 参考書:入門リハビリテーション概論第7版(医歯薬出版)、ICFコアセット 臨床実践のためのマニュアル(医歯薬出版) | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>携帯電話の電源は切ること。授業中の居眠り、不要な私語は厳重に注意する。この授業は医療の現場で勤務していることを想定して行う。したがって授業に集中しないことは業務に集中できないことと同様である。この授業で集中することをしっかり練習すること。教科書、配布資料は必ず読むこと。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 前期期末試験を実施する。合格基準は60%以上とする。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | | | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|---------------|---|----|------------------------|----------|
| 第1回 4月8日 | 信頼される医療職 医療専門職種の基本 キーワード:ルールとマナー、不快感と好感、接遇 | | | 資料配布 |
| 第2回 4月28日 | リハビリテーションの概念・理念・定義1 リハビリテーションの語源と現代リハビリテーションの定義 キーワード:語源、リハビリテーションの発展、定義 | | ①p1~7、 15~17 | |
| 第3回 5月6日 | リハビリテーションの概念・理念・定義2 自立生活運動 キーワード:起源、基本的考え、リハビリテーションパラダイム、指導理念 | | ①p7~9 | |
| 第4回 5月13日 | リハビリテーションの概念・歴史・定義3 ノーマライゼーション キーワード:ノーマライゼーションの背景、8原則、世界的広まり | | ①p9~13 | |
| 第5回 5月20日 | 障害分類1 健康と障害の概念 キーワード:国際障害分類、機能障害、能力低下、社会的不利 | | ①p19~23 | |
| 第6回 5月27日 | 障害分類2 国際生活機能分類(ICF)1 キーワード:ICFの背景、健康領域・健康関連領域、構成要素 | | ①p23~ 26、②3~ 10 | |
| 第7回 6月2日 | 障害分類3 国際生活機能分類(ICF)2 キーワード:構成要素の定義、相互作用 | | ①p23~ 26、②11 ~23 | |
| 第8回 6月3日 | 障害分類4 国際生活機能分類(ICF)3 キーワード:評価分類、コード化、事例応用 | | ①p23~ 26、②p27 以降 | |
| 第9回 6月10日 | 障害心理と障害受容 障害受容の心理的過程 キーワード:精神心的問題、障害、心理的適応過程 | | ①p37~50 | |
| 第10回 6月17日 | リハビリテーションの過程 リハビリテーションの過程 キーワード:評価、ゴール設定、プログラム | | ①p69~80 | |
| 第11回 6月24日 | リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションの諸段階、領域 キーワード:医学的、社会的、教育的、職業的リハビリテーション | | ①p81~98 | |
| 第12回 7月1日 | 医療とリハビリテーション専門職 医療職種の諸問題、リハビリテーション専門職種 キーワード:インフォームド・コンセント、インシデント、個人情報、専門職 | | ①p99~ 115 | |
| 第13回 7月8日 | チームアプローチ チーム医療、評価会議、ゴール設定 キーワード:チーム医療、評価会議、ゴール設定 | | ①p117~ 128 | |
| 第14回 7月15日 | 地域リハビリテーション 地域リハビリテーション キーワード:定義、社会資源 | | ①p155~ 169 | |
| 第15回 7月22日 | 関連法規と倫理規定 理学療法士・作業療法士の関連法規 キーワード:理学療法士・作業療法士法、医療法、医療保険・介護保険、倫理規定 | | ①p189~ 225 | 資料配布 |
| 試験 | 定期試験を実施する。 | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|--|----|-------|-------|
| 専門基礎 | 社会福祉概論 | 2 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 中原 留美子・大庭 俊裕 | リハビリテーション概論 | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 障害者の生活を支援する制度を理解し、社会的リハビリテーションのあり方を学ぶ。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 1. 社会保障制度の背景を説明できる。 2. 社会保障制度の種類と仕組みを説明できる。 3. 障害者が生活するうえで、どのようなことが困り、それに対する制度がどのようなになっているかを説明できる。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>社会保障制度はその内容が年単位で変更があり、卒業時には制度自体変更されている可能性がある。なぜ社会保障は変更があり、どのように成り立っているかを理解する必要がある。また、制度そのものが作られていく過程の中で、当事者がどのように関与しているのか、今後当事者の生活を支援する職種として、制度の必要性などを共感できるPT・OTになっていくことが重要である。授業は各回ごとに授業目標を提示し、その内容を講義する。学習は授業目標に沿っておこなっていただきたい。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 社会福祉サービスの基礎知識:三浦文夫編著 自由国民社 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>障害者の立場からみた生活の大変さをできる限り共感し、社会における責任である社会保障制度の仕組みを理解してもらいたい。当事者や当事者を支える専門家などが出演したDVDを鑑賞することが多い。睡魔との戦いがあるかと思われるが、講義よりも映像による共感の方が教育的効果が高いと考えているため、是非有効な時間にしてもらいたい。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 第1～15回の授業内容が範囲となる。授業目標に沿って復習すること。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | | 受講態度が悪く、3回以上指導されても修正されない場合は、減点することがある。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|----|-----|----------|
| 第1回 8月26日 | コースオリエンテーション・社会保障とは この講義の目的、目標、スケジュールなどを確認、理解する。 【キーワード】社会保障・憲法・リハビリテーション | 中原 | | 108 |
| 第2回 9月2日 | ライフサイクルと社会保障制度 自分のライフサイクルを通して、障害者自身・家族が困ることを想像する。 【キーワード】社会生活におけるニーズ・障害者や家族のニーズ | 中原 | | 108 |
| 第3回 9月9日 | 社会保障制度に影響を与える要因 4つの要因から社会保障制度との関連性を理解する 【キーワード】少子高齢化・世帯数・経済成長・多様化 | 中原 | | 108 |
| 第4回 9月16日 | 社会保険制度 社会保険のしくみとPT・OTの診療報酬について理解する 【キーワード】社会保険制度の種類・しくみ・診療報酬 | 中原 | | 108 |
| 第5回 9月23日 | 障害者に対する制度 障害者人権条約・障害者差別禁止法について理解する 【キーワード】人権・障害観・障害者権利条約・障害者差別禁止法 | 中原 | | 108 |
| 第6回 10月7日 | 障害者に対する制度 障害者基本法と権利擁護・障害者総合支援法について理解する 【キーワード】障害者基本法・障害者権利擁護・障害者総合支援法 | 中原 | | 108 |
| 第7回 10月14日 | 身体障害者に対する制度 身体障害者手帳の内容と申請手続き、身体障害者に対する経済的支援について理解する。 【キーワード】身障手帳・申請手続き・経済的支援 | 中原 | | 108 |
| 第8回 10月28日 | 身体障害者に対する制度 身体障害者に対する補装具や日常生活用具の支給についての手続きや内容について理解する。 【キーワード】補装具・日常生活用具・申請手続き | 中原 | | 108 |
| 第9回 11月4日 | 高齢者に対する制度 高齢者に対する制度の歴史と高齢者全般に対する制度について理解する。 【キーワード】老人福祉法・高齢者居住法・高齢者医療確保法 | 中原 | | 108 |
| 第10回 11月11日 | 高齢者に対する制度 要介護高齢者に対する制度について理解する。 【キーワード】介護保険・介護度・介護保険サービス | 中原 | | 108 |
| 第11回 11月18日 | 高齢者に対する制度 要介護高齢者に対する制度について理解する。 【キーワード】介護保険・介護度・介護保険サービス | 中原 | | 108 |
| 第12回 11月25日 | 精神障害者に対する制度 精神障害者の歴史とそれに対する制度について理解する。 【キーワード】精神障害・歴史・制度 | 大庭 | | 108 |
| 第13回 12月2日 | 精神障害者に対する制度 精神障害者の歴史とそれに対する制度について理解する。 【キーワード】精神障害・歴史・制度 | 大庭 | | 108 |
| 第14回 12月8日 | 子どもに対する制度 子ども全般に対する制度について理解する。 【キーワード】児童福祉法・少子化対策・医療費助成・こども園 | 中原 | | 108 |
| 第15回 12月15日 | 子どもに対する制度 障害のある子どもに対する制度について理解する。 【キーワード】療育手帳・発達障害支援法・特別支援制度 | 中原 | | 108 |
| 定期試験 | 第1～15回の範囲すべてが対象となります。各回の授業目標に沿って復習しておいてください。 | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|---|---|----|-------|-------|
| 専門 | 基礎理学療法学 | 4 | 60 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 宮下 正好 | 解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学実習、運動学、生理学、基礎理学療法学実習、機能診断学 など | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 理学療法理解のために必要な基礎科学、基礎医学の知識を習得する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | 1. 運動を学ぶ : 骨・関節・筋の構造、機能、障がいを理解する。(前期) 2. 運動のコントロールを学ぶ : 中枢神経の構造、機能、障がいを理解する。(後期) 3. 体力・持久力を学ぶ : 呼吸・循環・代謝の仕組み、働きを理解する。(後期) | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>この授業は、諸君が初めて学ぶ専門科目です。前後期通じて開講します。 理学療法を理解するのに最低限必要な基礎医学の内容を学びつつ、理学療法の基礎的な方法も学んでいきます。 理学療法入門講座ですので、是非、興味を持って受講して下さい。 関連科目である解剖学や運動学、基礎理学療法学実習では内容が重複します。いくつかの科目にまたがって扱うということは、重要なポイントであるということです。そこを意識して受講できると良いでしょう。 授業の前には該当項目(6頁程度)を一読して下さい。復習は、その日のうちに必ずノートを書きなおし、重要項目を覚えるようにしましょう。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書: 基礎理学療法学 講義資料 *オリジナル授業資料 | | | | | |
| 参考書: 中村隆一 著:基礎運動学 第6版 補訂. 医歯薬出版. 2012 など | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>体調管理をしっかり行ない、休まずに受講して下さい。 受講時は、礼儀正しく、清潔な身だしなみ(頭髪、服装、爪など)を心がけましょう。 内容、時間割が変更となる場合、掲示版やデスクネッツでお知らせします。注意深く見るようにして下さい。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 前期末試験、後期末試験を行ない、合計120点を合格の目安とします。 前期末試験は第1回～第15回の範囲で行ないます。後期末試験は第16回～第28回の範囲で行ないます。 前期末試験、後期末試験で不合格の場合、それぞれ再試験を実施しますが、再試験合格の場合、試験規程に準じて60点として扱います。 | | | |
| 小テスト | 0 | 年間で4回の「問題演習」を予定しています。原則として成績評価に含めません。 (日程と出題範囲は次ページを参照して下さい) | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | * | 授業への積極的な参加(発言など)については加点の対象とする場合があります。 問題演習でのカンニング、故意の白紙提出などは減点の対象とする場合があります。 授業に対する迷惑行為、授業中の居眠り・飲食・携帯電話の使用、無礼な態度、授業に関する事項のSNSへの公開、不適切な身だしなみ などは減点の対象とする場合があります。 | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 目付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|------------------|--|----|------|----------|
| 第1回 4/7 (木) | 身体を表現する基本用語 身体を表現する基本用語を覚え、使用できるようにする。 【キーワード】部位名称・基本平面・基本肢位・方位・姿勢 | 宮下 | p1 | 103・4 |
| 第2回 4/21 (木) | 骨・関節の構造と機能 骨・関節の基本的な構造、機能について学ぶ。 【キーワード】骨の機能・連結の分類・関節の構造・関節の分類・関節運動 | 宮下 | p6 | 103・4 |
| 第3回 4/28 (木) | 骨格筋の構造と機能 骨格筋の構造、筋収縮のしくみを学ぶ。 【キーワード】筋の構造・筋線維・筋原線維・興奮収縮連関・筋の収縮様式 | 宮下 | p16 | 103・4 |
| 第4回 5/6 (金) | 関節可動域 (ROM) 関節の可動性、正常と異常を学ぶ。 【キーワード】参考可動域・拘縮と強直・関節可動域検査 | 宮下 | p28 | 101・2 |
| 第5回 5/13 (金) | 筋力 (Muscle Strength) 筋力の概念、筋力低下を学ぶ。 【キーワード】筋力・トルク・筋力低下・筋萎縮・徒手筋力検査 | 宮下 | p34 | 101・2 |
| 第6回 5/20 (金) | 運動器の基礎 (復習 I) 第1回～第5回の内容で問題演習と解説を行い、日頃の学習への取り組みと理解度を点検する。 | 宮下 | | 101・2 |
| 第7回 5/27 (金) | 関節と理学療法 関節可動域制限に対する「運動療法」と「物理療法」を学ぶ。 【キーワード】ROM ex.・関節運動の効果・温熱の生体反応 | 宮下 | p43 | 101・2 |
| 第8回 6/3 (金) | 筋力と理学療法 筋力維持・増強の理論と方法を学ぶ。 【キーワード】運動療法の原則・漸増抵抗運動・等尺性運動 | 宮下 | p52 | 101・2 |
| 第9回 6/10 (金) | 姿勢・歩行 歩行の基本的概念を学ぶ。 【キーワード】身体重心・歩行周期・重心移動 | 宮下 | p143 | 101・2 |
| 第10回 6/14 (火) | 歩行の観察 正常な歩行、異常な歩行を学ぶ。 【キーワード】歩行速度・歩行率・異常歩行 | 宮下 | p150 | 101・2 |
| 第11回 6/24 (金) | ADLを支援する機器；杖 杖の種類、使用方法、意義を学ぶ。 【キーワード】T杖・松葉杖・長さ調整・歩行型・股関節にかかる力 | 宮下 | p164 | 101・2 |
| 第12回 6/30 (木) | 運動器と理学療法 (復習 II) 第7回～第11回までの内容で問題演習と解説を行い、日頃の学習の理解度を点検する。 | 宮下 | | 101・2 |
| 第13回 7/8 (金) | 理学療法の定義 理学療法、理学療法士の法的定義を学ぶ。 【キーワード】業務(間接・直接)・法的定義・罰則・欠格事由 | 宮下 | p193 | 101・2 |
| 第14回 7/15 (金) | 骨・関節・骨格筋 第2回、第3回の内容を中心に復習する。 関節、骨格筋の構造を図示、説明できるようにする。 | 宮下 | | 101・2 |
| 第15回 7/22 (金) | 理学療法に必要なバイオメカニクス これまでの授業で扱ってきた筋力や関節反力などの計算を復習する。計算を通して、人体にかかる力の仕組みを学ぶ。 | 宮下 | | 101・2 |
| 定期試験 8/1 (月) | 前期末試験 | 宮下 | | |

| 回数 目付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|------------------------------|--|------------|------|------------|
| 第16回 8/24 (水) | ニューロンの構造と伝導・伝達 ニューロンの構造、情報の伝導・伝達を学ぶ 【キーワード】ニューロン・神経線維・活動電位・伝導・伝達 | 宮下 | p59 | 107 |
| 第17回 8/30(火) 9/2(金) | 大脳の構造と機能 大脳の構造と機能局在を学ぶ。 【キーワード】大脳皮質・機能局在・大脳基底核・視床・視床下部 | 宮下 | p68 | 107 101 |
| 第18回 9/7 (水) | 脳幹・小脳・脊髄 脳幹・小脳・脊髄の構造の特徴、代表的な機能を学ぶ。 【キーワード】中脳・延髄・小脳・脊髄の外形・脊髄の断面 | 宮下 | p75 | 107 |
| 第19回 9/14 (水) | 随意運動 伸張反射と伝導路を学ぶ。 【キーワード】伸張反射・反射弓・筋紡錘・錐体路・錐体外路 | 宮下 | p82 | 107 |
| 第20回 9/27(火) 9/28(水) | 中枢神経の障害 中枢神経疾患の症状と障害を学ぶ。 【キーワード】錐体路症状・痙縮と固縮・中枢性麻痺の回復 | 宮下 | p90 | 107 |
| 第21回 10/4(火) 10/5(水) | 中枢神経の基礎(復習Ⅲ) 第16回～第20回の内容で問題演習を解説を行なう。問題演習を通して日頃の理解度を点検し、今後の学習の改善に繋げる。 | 宮下 | | 107 |
| 第22回 10/12(水) | 酸素と栄養の運搬 血液の循環と、酸素や栄養の行き来を学ぶ。 【キーワード】体循環・肺循環・酸素・二酸化炭素・門脈 | 宮下 | p101 | 107 |
| 第23回 10/21 (金) | 肺の構造と機能 肺・気管支の基本構造と機能を学ぶ。 【キーワード】気管支の分岐・肺区域・肺気量分画・血液ガス | 宮下 | p108 | 101 |
| 第24回 10/25(火) 10/28(金) | 心臓の構造と機能 心臓の主な構造とポンプ機能を学ぶ。 【キーワード】心臓の内腔・心臓の弁・冠状動脈・心拍出量 | 宮下 | p115 | 107 |
| 第25回 11/1(火) 11/4(金) | 刺激伝導系と心電図 心電図の基本事項を学ぶ。 【キーワード】刺激伝導系・肢誘導と胸部誘導・心電図基本波形 | 菊池 (校長) | p123 | 107 |
| 第26回 11/10(木) 11/11(金) | エネルギー代謝 細胞内でエネルギーを作る仕組みを学ぶ。 【キーワード】三大栄養素・ATP-PCr系・解糖系・有酸素代謝・AT | 赤岩 | p130 | 105 101 |
| 第27回 11/17(木) 11/18(金) | 全身持久力 持久力増強のための運動療法を学ぶ。 【キーワード】酸素摂取量・運動負荷試験・持久運動・運動強度 | 宮下 | p137 | 107 |
| 第28回 11/28 (月) | 呼吸・循環・代謝の基礎(復習Ⅳ) 第22回～第27回の内容で問題演習と解説を行う。問題演習を通して理解度を点検し、今後の学習改善につなげる。 | 宮下 | | 107 |
| 第29回 12/12 (月) | 姿勢反射1 姿勢反射とは何かを学ぶ。 【キーワード】反射・反応・立ち直り反射・平衡反応 | 赤岩 | p181 | 107 |
| 第30回 12/14 (水) | 姿勢反射2 立ち直り反応、平衡反応を学ぶ。 【キーワード】反射階層理論・立ち直り反応・平衡反応 | 赤岩 | p188 | 107 |
| 定期試験 | 後期末試験 | 宮下 | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|---|--|--|----|-------|-------|
| 専門 | 基礎理学療法学実習 | 2 | 90 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 宮下 正好／菊池 和也(校長) | 基礎理学療法学・解剖学実習・運動学・機能診断学 他 | | | |
| 授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 理学療法学生としての好ましい態度を身につける。理学療法の基本技能を習得する。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼儀正しく、節度ある態度で対象者に接することができる。 2. ランドマークおよび表層の筋の触診ができる。 3. バイタルサインの測定ができる。 4. トランスファーの介助ができる。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>この授業は、皆さんが初めて学ぶ実技科目です。前後期通じて開講します。</p> <p>前期では、「対象者への接し方」を身につけることを主な目標とします。患者さんに接するには、技術の前に「態度」が大切です。どのような態度が求められるのか？皆さんはまだ分からないので、実技授業の中で身につけていきましょう。</p> <p>後期はいよいよ技術面を習得する授業になります。授業中は、説明をしっかり聴いて、より多くのクラスメイトと練習を繰り返しましょう。実技上達のためには、「繰り返す」「より多くの被験者を触る」が秘訣です。</p> <p>週に1回は必ず、放課後に実習室を利用して練習するように心がけましょう。実技の練習は一人ではできないので、友人と声をかけあい、協力して練習しましょう。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書： 基礎理学療法学実習ノート(オリジナル授業資料) *前期に使用 藤縄 理：運動・からだ図解 筋と骨格の触診術の基本、マイナビ出版、2013 *後期に使用 参考書： 基礎理学療法学 講義資料(オリジナル授業資料) Andrew Biel:ボディ・ナビゲーション 触ってわかる身体解剖、医道の日本社、2012 など | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| 体調管理をしっかりして、休まずに受講しましょう。 Tシャツ、ハーフパンツなど動きやすい服装で受講して下さい。 爪は短く、頭髪は眉や耳にかかりすぎないようにしましょう。実習前後には必ず手を洗い、みだりに頭髪を触らないなど清潔に心がけましょう。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | | | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | 60 | 授業中の行動観察により習熟度を評価する。評価割合は、触診50%、バイタルサイン測定・介助50%とする。 積極的な態度(発言など)、周囲との協調した態度は加点の対象とする場合がある。 見出しなみ(服装、頭髪など)、受講態度が不良の場合、減点の対象とする。 授業に対する迷惑行為、授業中の居眠り・飲食・携帯電話の使用、無礼な態度、授業に関する事項のSNSへの公開、などは減点の対象とすることがあります。 | | | |
| (合計) | 60 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|------------------|--|----|-----|--------------------|
| 第1回 4/5 (火) | コースオリエンテーション・障がい体験① 手足に障害を持った状態を疑似体験する。 【キーワード】車椅子・歩行・杖 | 宮下 | p1 | 機能訓練室 車椅子、杖 |
| 第2回 4/12 (火) | 障がい体験②：グループディスカッション 体験についてグループで話し合い、発表する。 【キーワード】ディスカッション・デモンストレーション・発表 | 宮下 | p5 | 機能訓練室 |
| 第3回 4/19 (火) | 障がい体験③：レポート作成実習 第1・2回の内容を題材としてレポートを作成する。作成のルールを覚える。 【キーワード】表紙・作成のルール・参考文献 | 宮下 | p7 | 基礎医学実習室 |
| 第4回 4/26 (火) | 関節運動の面と種類 関節を動かし、その運動の種類、面、軸をいえるようにする。 【キーワード】関節運動・基本面・運動軸 | 宮下 | p10 | 機能訓練室 |
| 第5回 5/10 (火) | 筋の収縮様式 筋の収縮様式を区別できるようにする。 【キーワード】求心性収縮・遠心性収縮・等尺性収縮。等張性収縮 | 宮下 | p17 | 機能訓練室 |
| 第6回 5/17 (火) | 関節可動域 (ROM) 関節可動域測定の実験を通し、主な関節の参考可動域を覚える。 【キーワード】参考可動域・ゴニオメーター | 宮下 | p23 | 機能訓練室 ゴニオメーター |
| 第7回 5/24 (火) | 筋力 (張力、モーメント) の計算 関節に働くモーメント、筋の張力を計算する。 【キーワード】第1のてこ・第2のてこ・第3のてこ・モーメント | 宮下 | p29 | 機能訓練室 |
| 第8回 5/31 (火) | 徒手筋力検査 (MMT) 徒手筋力検査の判定基準を、体験を通して学ぶ。 【キーワード】抗重力位・除重力位・最大抵抗・筋収縮 | 宮下 | p35 | 機能訓練室 |
| 第9回 6/7 (火) | 関節可動域運動 (ROM ex.) 関節可動域運動の種類を覚える。 【キーワード】伸張運動・A-ROMex.・P-ROM ex. | 宮下 | p41 | 機能訓練室 |
| 第10回 6/16 (木) | 温熱療法 温熱療法の体験を通して、熱刺激による生体の反応を知る。 【キーワード】熱の移動形態・局所反応 | 宮下 | p47 | 治療室 ホットバック 等 |
| 第11回 6/21 (火) | 筋力維持・増強運動 筋力増強運動の体験を通して、筋力増強の理論を理解する。 【キーワード】等尺性運動・DeLormeの漸増抵抗運動・過負荷の原則 | 宮下 | p53 | 機能訓練室 重錘バンド |
| 第12回 6/28 (火) | 歩行の基礎 歩行速度、歩数の測定を通し、歩行の時間因子を理解する。 【キーワード】10m歩行時間・歩行速度・歩行率 | 宮下 | p59 | 機能訓練室 ストップウォッチ |
| 第13回 7/5 (火) | 杖を使用した歩行練習 杖の調整方法と使い方、杖の効果を学ぶ。 【キーワード】T杖・松葉杖・歩行型・中殿筋・モーメント | 宮下 | p63 | 機能訓練室 T杖、松葉杖 |
| 第14回 7/12 (火) | 杖の調整と歩行練習1 T杖の調整、歩行指導のシミュレーションを行う。 【キーワード】T杖・調整方法・歩行型 | 宮下 | p69 | 講堂 T杖 |
| 第15回 7/19 (火) | 杖の調整と歩行練習2 対象者に対する適切な接し方を考え、実践する。 【キーワード】T杖・調整方法・歩行指導・節度ある接し方 | 宮下 | p69 | 機能訓練室 T杖 |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|------------------------------|---|-------------------|-----|--------------|
| 第16回 8/25 (木) | 上肢の触診：肩甲骨、鎖骨 肩関節周囲のランドマークを触る。 【キーワード】内側縁・外側縁・下角・肩甲棘・肩峰・烏口突起 | 宮下 | | 治療室 |
| 第17回 8/24 (水) | 医療者としての適切な言動、基本的感染予防 【キーワード】医療者としての適切な言動、基本的感染予防 | 菊池 (校長) | | 治療室 |
| 第18回 9/8 (木) | 上肢の触診：肩周囲の筋 肩関節周囲の筋を触る。 【キーワード】三角筋・棘上筋・棘下筋・小円筋・大円筋 | 宮下 | | 機能訓練室 |
| 第19回 9/7 (水) | 適切な触れかた、支持、動かし方 【キーワード】触り方、支持、運動 | 菊池 (校長) | | 治療室 |
| 第20回 9/15(木) 9/16(金) | 上肢の触診：上腕骨、肘 肘関節周囲のランドマークを触る。 【キーワード】上腕骨内側上顆、外側上顆・肘頭・肘頭窩・橈骨頭 | 宮下 | | 治療室 |
| 第21回 9/14 (水) | バイタルサイン測定の基礎、実施 【キーワード】血圧、血圧計、聴診器、脈拍 | 菊池 (校長) | | 治療室 |
| 第22回 10/6(木) 10/7(金) | 上肢の触診：上腕の筋 上腕腹側、背側の筋を触る。 【キーワード】上腕二頭筋・上腕筋・上腕三頭筋(長頭・外側頭) | 宮下 | | 治療室 |
| 第23回 9/28 (水) | 血圧、脈拍など測定 1 【キーワード】安静時、血圧・脈拍測定、記録 | 菊池 (校長) | | 機能訓練室 |
| 第24回 10/13 (木) | 上肢の触診：橈骨、尺骨、手根骨 手関節周囲と手根骨を触る。 【キーワード】尺骨頭・尺骨茎状突起・橈骨茎状突起・手根骨 | 宮下 | | 治療室 |
| 第25回 10/21(金) 10/25(火) | 血圧、脈拍など測定 2 【キーワード】安静時、血圧・脈拍測定、記録 | 菊池 (校長) | | 治療室 機能訓練室 |
| 第26回 10/20 (木) | 上肢の触診：前腕の筋 前腕腹側、背側の筋を触る。 【キーワード】長掌筋・手根屈筋・浅指屈筋・腕橈骨筋・手根伸筋 | 宮下 | | 治療室 講堂 |
| 第27回 10/26 (水) | 血圧、脈拍など測定3 (血圧を聴診法と触診法で測定する) 【キーワード】血圧、聴診法、触診法 | 菊池 (校長) | | 治療室 |
| 第28回 10/26 (水) | 上肢の触診／復習 上肢のランドマーク、表層の筋の触診を総復習する。 触る技術と対人技能、両面から振り返り、今後の学習を改善する。 | 宮下 | | 治療室 |
| 第29回 11/1 (火) | 血圧、脈拍など測定4：復習 血圧・脈拍測定の総復習を行う。接遇、測定技術の確認を行う。 | 菊池 (校長)、 三田 | | 機能訓練室 |
| 第30回 11/7 (月) | 下肢の触診：骨盤と股関節 股関節周囲のランドマークを触る。 【キーワード】ASIS・腸骨稜・PSIS・坐骨結節・大転子 | 宮下 | | 講堂 |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|-------------------|---|-------------------------|-----|----------|
| 第31回 11/7 (月) | 動作介助1：動作介助の基本 【キーワード】起立・着座動作、重心移動 | 菊池 (校長) | | 機能訓練室 |
| 第32回 11/14 (月) | 下肢の触診：股周囲の筋 股関節周囲の筋を触る。 【キーワード】大殿筋・中殿筋・大腿筋膜張筋・腸脛靭帯・縫工筋 | 宮下 | | 講堂 |
| 第33回 11/14 (月) | 動作介助2：動作介助の基本 【キーワード】動作介助、セラピストの位置、セラピストの動き方 | 菊池 (校長) | | 機能訓練室 |
| 第34回 11/17 (木) | 下肢の触診：膝関節の周囲 膝関節周囲のランドマークを触る。 【キーワード】脛骨内側顆、外側顆・大腿骨内側顆、外側顆 など | 宮下 | | 治療室 |
| 第35回 11/16 (水) | 動作介助3：動作介助の基本 【キーワード】動作介助、セラピストの位置、セラピストの動き方 | 菊池 (校長) | | 機能訓練室 |
| 第36回 11/24 (木) | 下肢の触診：大腿の筋 大腿の前面、後面の筋を触る。 【キーワード】大腿直筋・内側広筋・外側広筋・ハムストリングス | 宮下 | | 治療室 |
| 第37回 11/28 (月) | 動作介助4：車椅子 【キーワード】車椅子の構造、整備、点検 | 菊池 (校長) | | 機能訓練室 |
| 第38回 12/1 (木) | 下肢の触診：足部 足部の骨を触る。 【キーワード】踵骨・内果・外果・舟状骨結節・第5中足骨粗面 | 宮下 | | 治療室 |
| 第39回 12/9 (金) | 動作介助5：車椅子 【キーワード】車椅子、操作、介助 | 菊池 (校長) | | 治療室 |
| 第40回 12/13 (火) | 下肢の触診：下腿の筋 下腿前面、後面の筋を触る。 【キーワード】前脛骨筋・長母指伸筋・腓骨筋・下腿三頭筋 | 宮下 | | 治療室 |
| 第41回 12/12 (月) | 動作介助6：トランスファー 【キーワード】車椅子、移乗方法、介助 | 菊池 (校長) | | 機能訓練室 |
| 第42回 12/16 (金) | 下肢の触診／復習 下肢のランドマーク、表層の筋の触診を総復習する。 触る技術と対人技能、両面から振り返り、今後の学習を改善する。 | 宮下 | | 治療室 |
| 第43回 12/16 (金) | 動作介助7：トランスファー 【キーワード】車椅子、移乗方法、介助 | 菊池 (校長) | | 機能訓練室 |
| 第44回 12/19 (月) | 脊柱、胸郭の触診 脊柱と胸郭を触る。 【キーワード】胸骨・肋骨・脊柱棘突起 | 宮下 | | 治療室 |
| 第45回 12/19 (月) | 動作介助8：復習 車椅子移乗、移動の介助について接遇、技術面での確認を行う | 菊池 (校長) 三田、片 平 | | 機能訓練室 |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---------------------------------|----|-------|-------|
| 専門 | 機能診断学 | 2 | 30 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科1年 | 植田 英則 他 | 運動学・解剖学・生理学・リハビリテーション概論・基礎理学療法学 | | | |
| 授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 理学療法評価の基礎を学ぶ | | | | |
| 行動目標 (SBO) | ①理学療法における評価の位置づけを知る。 ②情報収集の方法、情報の種類、記録の方法を知る。 ③身体機能・動作について、評価の基礎的な事項について学ぶ。 ④基本的な評価バッテリーを知る。 ⑤評価結果の統合と解釈および治療計画立案までの理学療法評価の一連の過程を知る。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>本講義では理学療法における評価の基礎を学びます。評価は理学療法士の臨床活動にとって欠くことのできない重要な位置づけとなっています。医療面接から検査・測定方法、および結果の解釈までの一連の流れを理解できるよう展開していきます。幅広く専門的知識を学ぶ授業ですので、理解が進まない場合は早めに担当教員まで相談に来てください。</p> | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | |
| 教科書:理学療法評価学 改定第5版(金原出版株式会社) 必要に応じ、資料を配布 | | | | | |
| 受講時留意点、その他 | | | | | |
| <p>専門職としての思考・技術を構築するための基礎であると認識しながら受講できると良いでしょう。2年次の専門科目の基礎になる内容です。各講義の関連性を考え、2年次の授業に繋がるように理解を深めていきましょう。</p> | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | |
| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など | | | |
| 定期試験 | 100 | 後期末試験を実施。60点以上を合格の目安とする。 | | | |
| 小テスト | | | | | |
| レポート | | | | | |
| 実技試験 | | | | | |
| プレゼンテーション | | | | | |
| その他 | | | | | |
| (合計) | 100 | | | | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------------|--|----|----------|----------|
| 第1回 8月25日 | <u>オリエンテーション・総論</u> 評価の位置づけとその概念について学ぶ | 植田 | P1～13 | 101 |
| 第2回 8月26日 | <u>姿勢と形態測定</u> 形態測定の種類、四肢長・周径の測定基準を学ぶ | 大沼 | P28～35 | 101 |
| 第3回 9月8日 | <u>関節可動域検査</u> 関節可動域測定のための目的、手順、記載方法を理解する | 大沼 | P36～63 | 101 |
| 第4回 9月15日 | <u>筋力検査</u> 筋力検査の種類、目的、方法について学ぶ | 大沼 | P64～85 | 101 |
| 第5回 10月6日 | <u>観察と面接・問診・情報収集①</u> 情報の種類、収集の仕方について学ぶ | 植田 | P15～25 | 101 |
| 第6回 10月13日 | <u>観察と面接・問診・情報収集②</u> 情報の種類、収集の仕方について学ぶ | 植田 | P15～25 | 講堂 |
| 第7回 10月20日 | <u>観察と面接・問診・情報収集③</u> 情報の種類、収集の仕方について学ぶ | 植田 | P15～25 | 講堂 |
| 第8回 10月27日 | <u>観察と面接・問診・情報収集④</u> まとめ 医療面接の技法を用いて実演を行う | 植田 | P15～25 | 講堂 |
| 第9回 11月8日 | <u>高次脳機能検査</u> 脳の機能解剖と主要障害(失語・失行・失認)を理解する | 三田 | P216～223 | 103 |
| 第10回 11月16日 | <u>日常生活活動の評価</u> ADLの定義と分類を理解する | 三田 | P224～242 | 103 |
| 第11回 11月24日 | <u>呼吸・循環機能検査</u> バイタルサインの測定方法と基準値を学ぶ。 【キーワード】脈拍、血圧、呼吸数、スパイロメトリー、換気障害 | 佐藤 | P258～271 | 講堂 |
| 第12回 12月9日 | <u>感覚検査</u> 感覚の定義、伝導路、障害、検査方法について学ぶ。 【キーワード】表在感覚、深部感覚 | 片平 | P107～112 | 107 |
| 第13回 12月13日 | <u>痛みの評価</u> 代表的な整形外科検査、痛みの評価の方法について学ぶ | 片平 | P101～106 | 107 |
| 第14回 12月13日 | <u>反射検査</u> 代表的な伸張反射(腱反射)と病的反射、表在反射の分類、検査方法を学ぶ。【キーワード】伸張反射、病的反射、表在反射 | 片平 | P113～125 | 107 |
| 第15回 12月20日 | <u>筋トーン検査と片麻痺機能検査</u> 筋トーン異常の検査方法、片麻痺機能評価の方法の種類を知る。 【キーワード】筋トーン亢進・低下、ブルンストロームステージ、SIAS | 片平 | P172～206 | 107 |
| 定期試験 | | | | |

| 授業科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 時間 | 必修・選択 | 聴講生受入 |
|--|--|---|----|-------|-------|
| 専門 | 臨床実習 I | 1 | 45 | 必修 | — |
| 対象学科・学年 | 担当教員名 | この科目と関連の深い科目 | | | |
| 理学療法学科 1 年 | 臨床実習指導者 1 年生担任教員 | 解剖学実習・運動学・生理学・基礎理学療法学 基礎理学療法学実習・機能診断学 ほか | | | |
| 授業目標 *詳細な授業目標は、毎回授業の冒頭で提示 | | | | | |
| 一般目標 (GIO) | 対象者および実習施設スタッフに医療（あるいは福祉）チームの一員として適切な態度で接することを学ぶ。 | | | | |
| 行動目標 (SBO) | <p>(情意領域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを清潔にできる。 挨拶ができる。 時間を守ることができる。 職員（実習指導者）に報告・連絡・相談ができる。 対象者に節度ある言葉づかいで接することができる。 職員に節度ある言葉づかいで接することができる。 <p>(精神運動領域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 脈拍測定ができる。 血圧測定（聴診法、触診法）ができる。 | | | | |
| この授業の概要、助言、学習支援の方法 など | | | | | |
| <p>この授業は、学外の実習施設へ通い、臨床実習指導者の下で行われます。診療場面に参加し、様々な体験、見学を行います。実習は以下のような方法で行われます。</p> <p>(1) 診療参加型臨床実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習生が臨床実習指導者の助手として、診療補助行為を行うことによって、臨床経験を積んでいく授業形態です。 指導者から具体的な指示を受け、できることから診療に参加していきます。 1 年次は、評価・治療技術の習得を目的とする必要はなく（*）、純粋に「体験」することを目的とします。（* 脈拍、血圧測定のみ技術習得を目標とします） 体験を通して、対象者や実習施設スタッフとの適切な接し方を学びます。 <p>(2) 実習日誌</p> <ul style="list-style-type: none"> 行動記録、実習記録（体験数）、1 日の振り返りなどを記載します。 毎日記載して、臨床実習指導者へ提出します（学校指定の書式使用）。 指導者は確認してサインをします。 <p>(3) 自己目標シート</p> <ul style="list-style-type: none"> 行動目標、自己目標についての達成度をチェックします。毎日記載して指導者へ提出します。 | | | | | |

- ・ 指導者は確認してサインします。

教科書・参考書

臨床実習の手引き（本校編集授業資料）

臨床実習記録（本校編集授業資料）

その他、学内授業で活用した教科書

カラー人体解剖学（西村書店）、基礎運動学（医歯薬出版）、理学療法評価学（金原出版）
解剖生理学（医学書院）、標準理学療法学・作業療法学 整形外科学（医学書院） ほか

受講時留意点、その他

- ・ 服装は、学校指定のユニフォームとします。ただし、実習施設で指定がある場合それにしたがって下さい。
- ・ 実習施設の規則を守り、理学療法学生として適切な行動を心がけて下さい。
- ・ 原則的に土日の開講はありません。ただし、実習施設や実習指導者の勤務の関係で曜日変更となる場合があります。
- ・ 持参資料 及び 学校提出物、返却物 は以下の通りです。

施設へ持参する資料（実習初日に持参）

臨床実習記録

学校へ提出する資料（実習終了後）

臨床実習記録（*）・実習日誌・自己目標シート・学生個人票（*）

*実習最終日に指導者から返却を受けて下さい。

成績評価方法

| 評価方法 | 評価割合(%) | 具体的な評価の方法、観点 など |
|-----------|---------|--|
| 定期試験 | 0 | |
| 小テスト | 0 | |
| レポート | 30 | 実習終了後に作成、提出する「実習のまとめ」「実習日誌」を各 15%で採点する。 |
| 実技試験 | 0 | |
| プレゼンテーション | 0 | |
| その他 | 70 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「到達度の記録」（臨床実習記録）、経験数（実習日誌）を中心に採点。 ・ 出席簿（臨床実習記録）・指導記録および行動観察記録（臨床実習記録）を採点の参考資料として扱う。 ・ 迷惑行為、個人情報漏えいなどは減点の対象とする。 |
| (合計) | 100 | |

| 回数 日付 | テーマ、内容、キーワード | 教員 | 教科書 | 教室 教材 |
|----------|---|-------|--------------|----------|
| | <u>臨床実習準備講座 1</u> 実習地を発表し、臨床実習 I の概要を説明する。 | 1 年担任 | 臨床実習 の手引き | |
| | <u>臨床実習準備講座 2</u> 実習日誌を 1 週間提出し、担任が添削する。 不十分な者は 1 週間を超えても継続する。 | 1 年担任 | 実習日誌 | |
| | <u>臨床実習指導者会議</u> 実習指導者との面談を行う。 | 1 年担任 | | |
| 第 1 回 | <u>コースオリエンテーション</u> 施設の規則、実習スケジュールなど | 実習指導者 | | 実習施設 |
| 第 2 回 | <u>診療参加型臨床実習 1</u> バイタルサインの測定、その他診療体験。 | 実習指導者 | | 実習施設 |
| 第 3 回 | <u>診療参加型臨床実習 2</u> バイタルサインの測定、その他診療体験。 | 実習指導者 | | 実習施設 |
| 第 4 回 | <u>診療参加型臨床実習 3</u> バイタルサインの測定、その他診療体験。 | 実習指導者 | | 実習施設 |
| 第 5 回 | <u>診療参加型臨床実習 4</u> バイタルサインの測定、その他診療体験。 | 実習指導者 | | 実習施設 |
| 第 6 回 | <u>まとめ</u> 臨床実習記録（到達度の記録など）についての フィードバック | 実習指導者 | | 実習施設 |
| | <u>臨床実習セミナー</u> 実習関係書類の回収を行う。 実習体験について発表、討論を行う。 | 1 年担任 | | |